
2023年度第3四半期決算 及び
2023年度業績見通し

説明資料

帝人株式会社

2024年2月8日

今回公表のポイント

■ 当社のターゲット市場の状況

- マテリアルは一部用途においてサプライチェーンにおける在庫調整や顧客側での生産制約等の影響あり
- ヘルスケアは糖尿病薬市場で厳しい競争環境が継続。在宅持続陽圧呼吸療法（CPAP）市場は拡大継続

2023年度 3Q累計 実績

■ 実績

売上高 : 7,596億円（前年同期：7,651億円 [増減率：▲0.7%]）

営業利益 : 49億円（前年同期：148億円 [増減率：▲67.3%]）

四半期純利益 : 35億円（前年同期：-71億円 [増減：+105億円]）

- 営業利益は、アミド・複合成形材料の収益性改善効果（原燃料価格安定化、コスト削減等）があるも、医薬品導入一時金影響や医薬品「フェブリク*1」の後発品参入影響等により、前年同期比で減少
- 親会社株主に帰属する四半期純利益は、前年同期対比増加（前年同期は複合成形材料での減損損失計上等の影響あり）

2023年度 通期業績 見通し

売上高 : 1兆300億円（前年度：1兆188億円 [増減率：+1.1%]、前回見通し*2：1兆300億円 [据え置き]）

営業利益 : 180億円（前年度：129億円 [増減率：+39.9%]、前回見通し*2：350億円 [増減率：▲48.6%]）

当期純利益 : 80億円（前年度：-177億円 [増減：+257億円]、前回見通し*2：130億円 [増減率：▲38.5%]）

- 前年度対比では、増収・増益見通し。ヘルスケアにおいて導入一時金影響や年間通しての後発品参入の影響を見込むも、23年2月公表の「収益性改善に向けた改革」の施策効果の発現等により全体では増益見通し
- 前回見通し対比では、売上高据え置き、減益見通し。ヘルスケアにおける導入一時金影響や、マテリアルにおける一部用途での需要軟化や顧客在庫調整影響、複合成形材料の設備故障の再発による安定稼働化未達等により、前回見通し対比減益を見込む

株主還元

- 年間配当は前回見通しから変更なく、30円/株（中間15円、期末予想15円）の見通し

1. 2023年度第3四半期決算
2. 2023年度業績見通し
3. 収益性改善に向けた改革の進捗状況
4. 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応（現状分析）
5. 参考資料
 - ✓ 前提（市場動向、損益影響要因、セグメント変更）
 - ✓ 2023年度第3四半期決算データ
 - ✓ 2023年度業績見通しデータ
 - ✓ 主要医薬品 国内売上高実績推移
 - ✓ 非財務情報 ESG外部評価

見通しに関するご注意

当資料に記載されている内容は、種々の前提に基づいたものであり、記載された将来の計画数値、施策の実現を確約したり、保証するものではありません。

当資料に含まれている医薬品、医療機器、再生医療等製品（開発中のものも含む）に関する情報は、宣伝広告、医学的アドバイスを目的とするものではありません。

本資料は2024年2月8日15時に公表した弊社決算に基づくものです。

1. 2023年度第3四半期決算

- ✓ 実績サマリー
- ✓ セグメント別営業利益増減分析
- ✓ 営業外損益
- ✓ 特別損益
- ✓ 財政状況、キャッシュ・フローの状況

◆実績サマリー（前年同期対比）

■売上高：概ね前年同期並み

■営業利益：アラミド・複合成形材料の収益性改善効果（原燃料価格安定化、コスト削減等）があるも、医薬品導入一時金影響及び医薬品「フェブリク」の後発品参入影響等により、前年同期対比で減益

■親会社株主に帰属する四半期純利益：前年同期は複合成形材料での減損損失計上のため、前年同期対比で増益

(億円)

	22年度 3Q累計	23年度 3Q累計	差異	増減率
売上高	7,651	7,596	-55	-0.7%
営業利益	148	49	-100	-67.3%
経常利益	175	76	-98	-56.3%
税金等調整前四半期純利益	91	107	+16	+17.3%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	-71	35	+105	-
ROE ^{*1}	-2.2%	1.1%	+3.2%	-
営業利益ROIC ^{*2}	2.4%	0.8%	-1.6%	-
EBITDA ^{*3}	707	643	-64	-9.1%
設備投資 ^{*4}	429	420	-9	-2.0%
減価償却費 ^{*5}	559	594	+35	+6.3%
研究開発費	234	337	+103	+44.2%

◇為替・市況燃料価格

	22年度 3Q累計	23年度 3Q累計	
PL換算レート	円/米ドル	137	143
	円/ユーロ	141	155
原油(Dubai)価格 (米ドル/バレル)	96	82	
欧州天然ガス価格 (ユーロ/MWh)	136	37	

*1 「親会社株主に帰属する四半期純利益÷期首・期末平均自己資本」にて算出。年換算後の数値。

2 「営業利益÷期首・期末平均投下資本」にて算出。
年換算後の数値

(*投下資本 = 純資産 + 有利子負債 - 現金及び預金)

*3 「営業利益 + 減価償却費 (のれんを含む)」にて算出

*4 設備投資には無形固定資産の取得を含む (M&Aは含まず)

*5 のれん償却含む

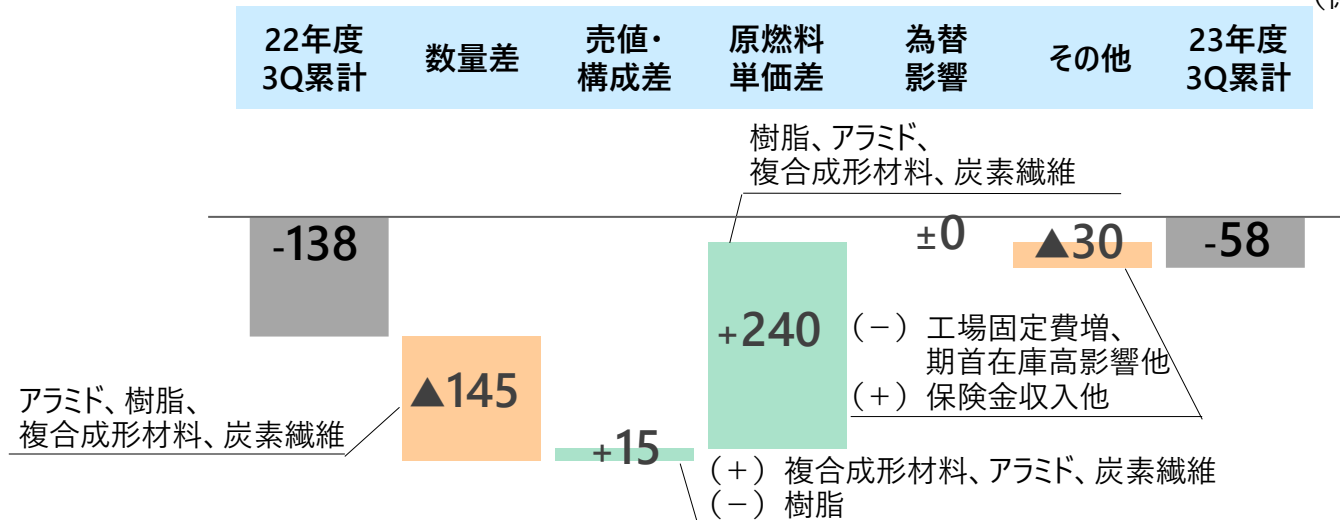
◆ 営業利益セグメント分析 マテリアル（前年同期対比）

◆ 売上高：3,213億円（前年同期*1比▲101億円）、営業利益：-58億円（前年同期*1比+80億円）

■ 各事業で販売量が減少したが、アラミド・複合成形材料の収益性改善効果や、アラミドの前年度の火災事故に対する保険金収入等により増益

< 営業利益増減内訳 >

（億円）



営業利益増減要因

	アラミド（減収・増益 ➡）	樹脂（減収・微減益 ➡）	炭素繊維（減収・減益 ➡）	複合成形材料（増収・増益 ➡）
(+)	<ul style="list-style-type: none"> 収益性改善効果発現 天然ガス価格安定化等 販売価格改定 保険金収入 	—	<ul style="list-style-type: none"> 原燃料価格低下 	<ul style="list-style-type: none"> 収益性改善効果発現*2 販売価格改定やコスト削減等
(-)	<ul style="list-style-type: none"> 販売量減少 原料工場火災影響、特殊補修部品の調達遅れ、サプライチェーンでの在庫調整 	<ul style="list-style-type: none"> 販売量減少 中国での低調な景気継続や欧州での経済減速による需要低迷 	<ul style="list-style-type: none"> 販売量減少 航空機サプライチェーン上での調達制約による需要停滞、レクリエーション用途等におけるサプライチェーンでの在庫調整等 	<ul style="list-style-type: none"> 販売量減少 一部プログラムでの需要減、ストライキ影響

*1 2023年度より新事業組織について、「マテリアル」セグメントから「その他」セグメントへ区分変更を実施。それに伴い2022年度の情報は、変更後のセグメント区分に組み替えた数値としている

*2 収益性改善計画で織り込んでいた一時要因からの復旧効果は減少（詳細はP19に記載）

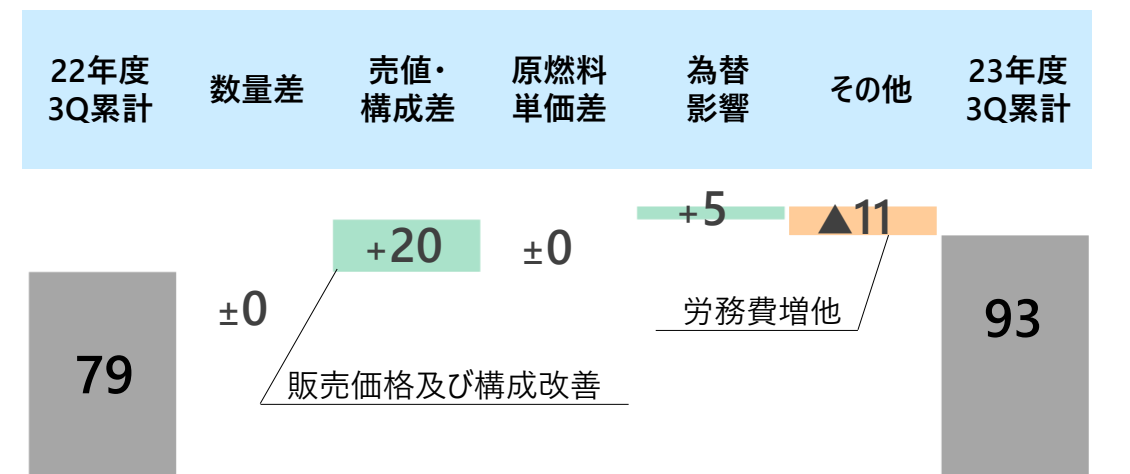
◆ 営業利益セグメント分析 繊維・製品、ヘルスケア（前年同期対比）

◆ **繊維・製品** 売上高：2,388億円（前年同期比▲19億円）
 営業利益：93億円（前年同期比+14億円）

■ 衣料繊維分野・産業資材分野ともに販売好調

< 営業利益増減内訳 >

（億円）



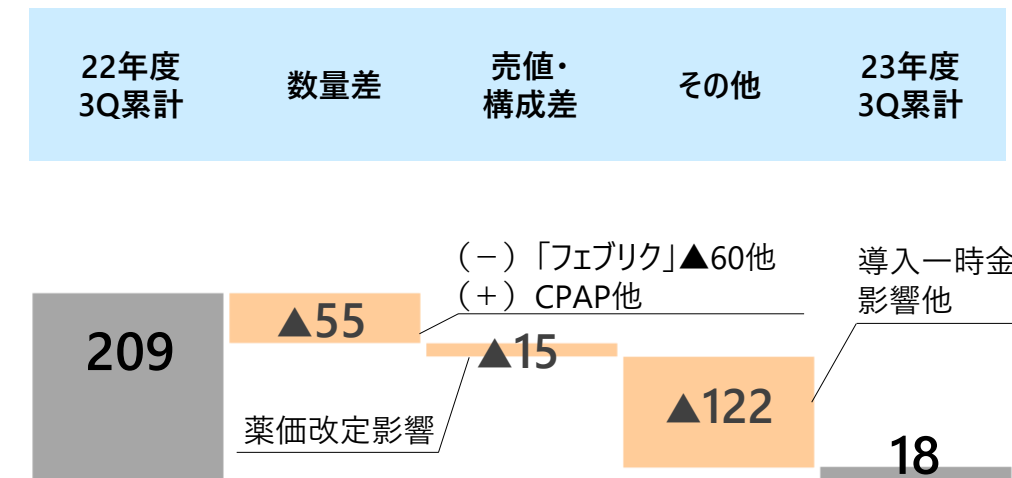
営業利益増減要因	
(+)	<ul style="list-style-type: none"> 販売好調 (衣料繊維分野)北米や中国向けテキスタイル・衣料品は堅調、国内向け衣料品は好調 (産業資材分野)水処理フィルター向けポリエステル短繊維、人工皮革、インフラ補強材は好調
(-)	<ul style="list-style-type: none"> 労務費増等

◆ **ヘルスケア** 売上高：1,071億円（前年同期*1比▲70億円）
 営業利益：18億円（前年同期*1比▲192億円）

■ 医療機器はレンタル好調も、医薬品導入一時金および医薬品「フェブリク」の後発品参入影響が大きく減益

< 営業利益増減内訳 >

（億円）



営業利益増減要因	
(+)	<ul style="list-style-type: none"> 医療機器レンタル台数増加 (CPAP)検査数回復基調によるレンタル台数増加
(-)	<ul style="list-style-type: none"> 医薬品導入一時金 希少内分泌疾患のホルモン治療薬として開発中の医薬品のライセンス契約一時金 70百万ドルを計上 「フェブリク」後発品参入による販売量減少

*1 2023年度より新事業組織について、「ヘルスケア」セグメントから「その他」セグメントへ区分変更を実施。それに伴い2022年度の情報は、変更後のセグメント区分に組み替えた数値としている

◆ 営業利益セグメント分析 IT、その他（前年同期対比）

◆ IT 売上高：517億円（前年同期比+101億円）、営業利益：64億円（前年同期比+9億円）

■ ネットビジネス分野販売好調、ITサービス分野販売堅調

営業利益増減要因	
(+)	<ul style="list-style-type: none"> 販売好調 (ネットビジネス分野)電子コミックサービスにおいて効果的な広告投資を継続し販売好調 (ITサービス分野)病院向け及び企業向けが概ね堅調
(-)	—

◆ その他 売上高：407億円（前年同期*1比+33億円）、営業利益：-12億円（前年同期*1比▲6億円）

■ 電池部材分野、埋込医療機器分野で販売好調

営業利益増減要因	
(+)	<ul style="list-style-type: none"> 電池部材分野、埋込医療機器分野で販売好調 (電池部材分野)リチウムイオンバッテリー用セパレータ及び高機能メンブレンが好調な販売を継続 (埋込医療機器分野)販売量は堅調に推移 (再生医療分野)J-TEC*2は概ね堅調に推移
(-)	<ul style="list-style-type: none"> 再生医療分野でのCDMO*3事業立ち上げに伴うコスト増 等

*1 2023年度より新事業組織について、「マテリアル」、「ヘルスケア」セグメントから「その他」セグメントへ区分変更を実施。それに伴い2022年度の情報は、変更後のセグメント区分に組み替えた数値としている

*2 (株) ジャパン・ティッシュエンジニアリング *3 Contract Development and Manufacturing Organization 製品の開発・製造を受託する機関

◆ 営業外損益（前年同期対比）

- 米欧の金利上昇による支払利息増を、持分法による投資利益の増加等で概ね相殺

(億円)

	22年度 3Q累計	23年度 3Q累計	差異
受取利息	8	19	+11
受取配当金	11	8	-3
持分法による投資利益	39	77 ^{*1}	+38
デリバティブ評価益	76	62	-13
その他	7	8	+2
営業外収益 計	140	175	+34
支払利息	55	93	+38
為替差損	49	37	-13
デリバティブ評価損	0	5	+5
その他	10	12	+2
営業外費用 計	114	147	+33
営業外損益 計	26	28	+2

*1 ブラジルの子会社における訴訟解決に伴う補償金含む

◆特別損益（前年同期対比）

- 中国の複合成形材料子会社株式の売却損計上も、前年同期の米国複合成形材料ののれん減損損失計上やアラミドの前年度の火災事故に対する保険金収入の計上等により前年同期対比増益

	(億円)		
	22年度 3Q累計	23年度 3Q累計	差異
固定資産売却益	51	3	-48
投資有価証券売却益	54	70	+16
受取保険金	-	58 ^{*2}	+58
その他	2	5	+3
特別利益 計	107	135	+28
固定資産除売却損	10	7	-3
投資有価証券評価損	15	3	-12
減損損失	159 ^{*1}	3	-156
関係会社株式売却損	-	69 ^{*3}	+69
災害による損失	2	18	+16
その他	5	6	+1
特別損失 計	190	105	-86
特別損益 計	-83	31	+114

*1 TAT-US社に関するのれんに係る減損損失154億円他

*2 アラミド事業の前年度の火災事故に対する保険金収入
(保険金収入については以下の通り23年度3Q累計で計上
営業利益：52億円、特別利益：58億円)

*3 複合成形材料の中国事業撤退に伴う損失

◆ 財政状況（前年度末対比）、キャッシュフローの状況（前年同期対比）

◆ 財政状況

- 主に為替影響で総資産増加
- 棚卸資産については、為替影響のほか、アラミドの火災からの復旧による在庫形成等で前年度末対比増加

	(億円)			
	23年 3月末	23年 12月末	差異	内 為替 換算影響
総資産	12,424	12,843	+419	+319
負債	7,913	8,179	+266	+150
(内 有利子負債)	5,294	5,721	+427	+114
純資産	4,511	4,664	+153	+169
D/Eレシオ ^{*1}	1.25	1.30	+0.06	-
D/Eレシオ (資本性調整後) ^{*2}	1.10	1.15	+0.06	-

	(億円)			
	23年 3月末	23年 12月末	差異	
＜総資産増減内訳＞				
総資産	12,424	12,843	+419	
現金及び預金	1,428	1,576	+148	
売上債権 ^{*3}	1,865	1,830	-35	
棚卸資産	1,967	2,269	+302	
固定資産	5,084	5,009	-75	
投資有価証券	821	904	+83	
その他	1,259	1,256	-3	

◆ キャッシュフローの状況

- 営業減益等により営業活動によるキャッシュフローが減少

	(億円)			
	22年度 3Q累計	23年度 3Q累計	差異	
営業活動	438	296	-142	
投資活動	-399	-396	+3	
フリー・キャッシュ・フロー	38	-100	-139	
財務活動他	106	247	+141	
現金及び現金同等物増減	144	147	+3	

＜BS換算レート＞

	23年 3月末	23年 12月末
円／米ドル	134	142
円／ユーロ	146	157

*1 「有利子負債÷自己資本」にて算出（グロス表示）

*2 劣後債資本性調整後のD/Eレシオ（2021年7月21日 劣後債 600億円発行済）

*3 契約資産含む

2. 2023年度業績見通し

- ✓ 通期業績見通しサマリー
- ✓ セグメント別営業利益見通し
- ✓ セグメント別営業利益増減分析

◆ 通期業績見通しサマリー（前年度対比、前回見通し*1対比）

- 前年度対比増収・増益見込み
- 前回見通しから、売上高は据え置き。営業利益、経常利益、当期純利益は下方修正

(億円)

	22年度 実績	23年度 見通し	差異	増減率	23年度 前回見通し*1	差異
売上高	10,188	10,300	+112	+1.1%	10,300	0
営業利益	129	180	+51	+39.9%	350	-170
経常利益	91	190	+99	+108.8%	310	-120
親会社株主に帰属する 当期純利益	-177	80	+257	-	130	-50
ROE *2	-4.1%	2%	+6%	-	3%	-1%
営業利益ROIC *3	1.6%	2%	+1%	-	4%	-2%
EBITDA *4	878	960	+82	+9.4%	1,130	-170
フリー・キャッシュ・フロー	27	50	+23	+88.0%	0	+50
設備投資 *5	625	650	+25	+4.0%	850	-200
減価償却費 *6	749	780	+31	+4.1%	780	0
研究開発費	319	330	+11	+3.3%	330	0
D/Eレシオ *7	1.25	1.2	-0.0	-	1.2	-0.0
D/Eレシオ（資本性調整後）*8	1.10	1.1	-0.0	-	1.1	-0.0

◇ 前提条件

	22年度	23年度 前回見通し*1	23年度 見通し
通期平均 円/米ドル 為替レート	135	143	144
	141	154	155
原油(Dubai)価格	92	81	82
欧州天然ガス価格 (ユーロ/MWh)	116	46	38

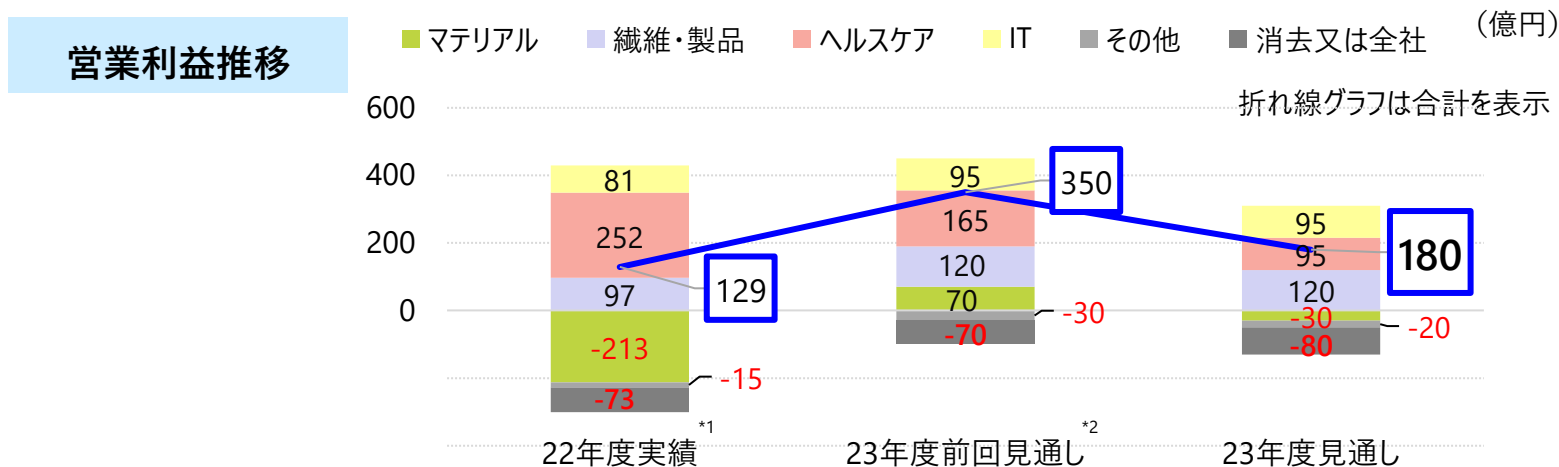
*1 2023年11月6日公表 *2 「親会社株主に帰属する当期純利益÷期首・期末平均自己資本」にて算出 *3 「営業利益÷期首・期末平均投下資本*」にて算出（*投下資本 = 純資産 + 有利子負債 - 現金及び預金）

*4 「営業利益 + 減価償却費（のれんを含む）」にて算出 *5 設備投資には無形固定資産の取得を含む（M&Aを含まず） *6 のれん償却含む

*7 「有利子負債÷自己資本」にて算出（グロス表示） *8 劣後債資本性調整後のD/Eレシオ（2021年7月21日 劣後債 600億円発行済）

◆ セグメント別 営業利益 （前年度*1対比、前回見通し*2対比）

- 前年度対比：マテリアルにおける原燃料価格安定化や生産性の改善、追加的な販売価格改定等の収益性改善施策の効果発現等が、ヘルスケアの導入一時金影響および後発品参入の影響をカバーし増益となる見通し
- 前回見通し対比：ヘルスケアにおける導入一時金影響や、マテリアルにおける一部用途での需要軟化や顧客在庫調整影響、複合成形材料の設備故障の再発による安定稼働化未達等により、前回見通し対比減益を見込む



*1 2023年度より新事業組織について、「マテリアル」、「ヘルスケア」セグメントから「その他」セグメントへ区分変更を実施。それに伴い2022年度の情報は、変更後のセグメント区分に組み替えた数値で表示

*2 2023年11月6日公表

セグメント	営業利益の増減 (億円) ・要因			
	前年度*1対比 (売上高 +112億円 営業利益 +51億円)		前回見通し*2対比 (売上高据え置き 営業利益 ▲170億円)	
-マテリアル	+183	<ul style="list-style-type: none"> ・(+)収益性改善施策の効果発現 (原燃料価格安定化、生産性改善、販売価格改定) ・(-)一部用途での需要減や顧客在庫調整による販売減、労務費単価高騰影響等 	▲100	<ul style="list-style-type: none"> ・一部用途での需要減や顧客在庫調整による販売減、複合成形材料の設備故障の再発による安定稼働化未達等
-繊維・製品	+23	<ul style="list-style-type: none"> ・衣料繊維、産業資材とも国内外で好調な販売が継続 	0	<ul style="list-style-type: none"> ・前回見通しから変更なし
-ヘルスケア	▲157	<ul style="list-style-type: none"> ・医薬品導入一時金影響および「フェブリク」後発品参入による販売量減 	▲70	<ul style="list-style-type: none"> ・医薬品導入一時金影響
-IT	+14	<ul style="list-style-type: none"> ・堅調なネットビジネスによる増販 	0	<ul style="list-style-type: none"> ・前回見通しから変更なし
-その他	▲5	<ul style="list-style-type: none"> ・CDMO事業立ち上げに伴う先行費用発生 	+10	<ul style="list-style-type: none"> ・セパレータ堅調

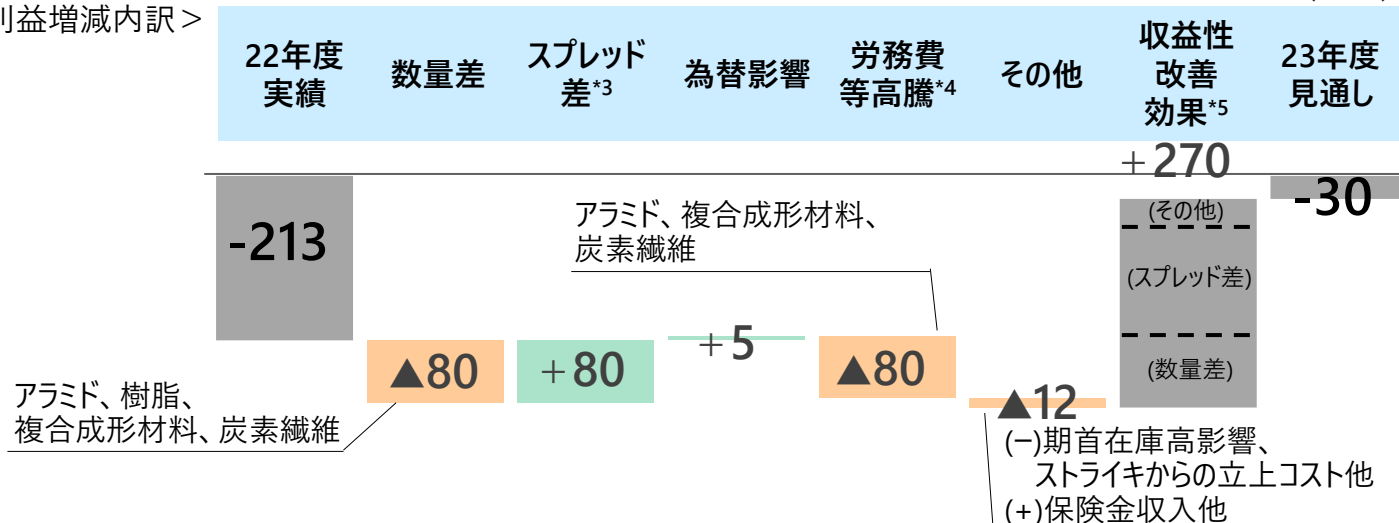
◆ 営業利益セグメント分析 マテリアル（前年度*1対比、前回見通し*2対比）

◆ 売上高：4,450億円（前年度*1 4,387億円、前回見通し*2 4,450億円）、営業利益：-30億円（前年度*1 -213億円、前回見通し*2 70億円）

- 天然ガス価格安定化や販売価格改定等の貢献で前年度対比赤字幅縮小も、一部用途での顧客在庫調整や経済減速による需要減、複合成形材料の設備故障の再発による安定稼働化未達等により前回見通し対比減益の見通し

（億円）

< 営業利益増減内訳 >



*1 2023年度より新事業組織について、「マテリアル」セグメントから「その他」セグメントへ区分変更を実施。それに伴い2022年度の情報は、変更後のセグメント区分に組み替えた数値で表示

*2 2023年11月6日公表

*3 売値・構成差 + 原燃料単価差

*4 インフレ影響による労務費・物流費等の高騰

*5 収益性改善効果については、複合成形材料の設備故障の再発による安定稼働化未達等により、前回見通し対比▲30億円

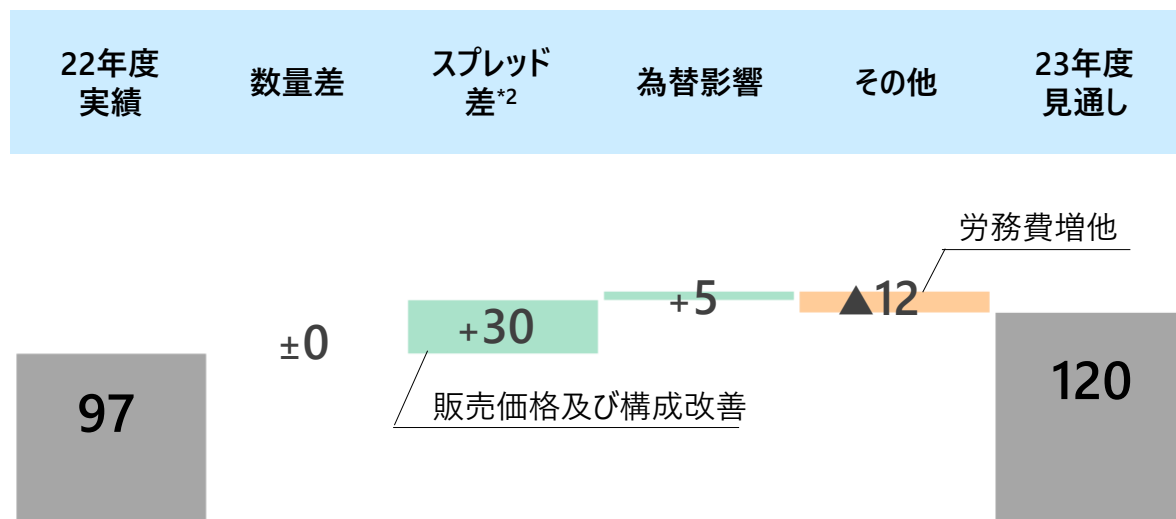
サブセグメント	営業利益の方向・要因	
	前年度*1対比（売上高 +63億円 営業利益 +183億円）	前回見通し*2対比（売上高 据え置き 営業利益 ▲100億円）
アラミド	<ul style="list-style-type: none"> 天然ガス価格安定化 原料工場の火災等による影響解消 	<ul style="list-style-type: none"> 収益性改善策は概ね予定通り進捗 自動車や一部産業用途での顧客在庫調整等による販売量減少
樹脂	<ul style="list-style-type: none"> 中国を中心に低調な需要が継続し、販売量減少 	<ul style="list-style-type: none"> 中国を中心に需要の回復が遅延し、販売量減少
炭素繊維	<ul style="list-style-type: none"> レクリエーション用途での顧客在庫調整等による販売量減少 	<ul style="list-style-type: none"> 航空機用途のサプライチェーンでの調達制約やレクリエーション用途での顧客在庫調整等による販売量減少
複合成形材料	<ul style="list-style-type: none"> 価格再交渉、コスト削減施策等による収益性改善 労働力不足影響の低下 	<ul style="list-style-type: none"> 収益性改善策は一時的要因からの復旧を除き概ね予定通り進捗 設備故障の再発による安定稼働化未達 ストライキからの立上げコスト増

◆営業利益セグメント分析 繊維・製品（前年度対比、前回見通し*1対比）

◆ 売上高：3,200億円（前年度 3,221億円、前回見通し*1 3,200億円）、営業利益：120億円（前年度 97億円、前回見通し*1 120億円）

■ 衣料繊維分野・産業資材分野ともに販売好調で前年度対比増益見通し、前回見通しからは変更なし

<営業利益増減内訳> (億円)



営業利益の方向・要因

前年度対比（売上高 ▲21億円 営業利益 +23億円）		前回見通し*1対比（売上高・営業利益 据え置き）	
➡	<ul style="list-style-type: none"> ・(+)衣料繊維：国内外で好調な需要が継続 ・(+)産業資材：自動車関連の市況回復、水処理フィルター向けポリエステル短繊維販売好調 	➡	<ul style="list-style-type: none"> ・前回見通しから変更なし

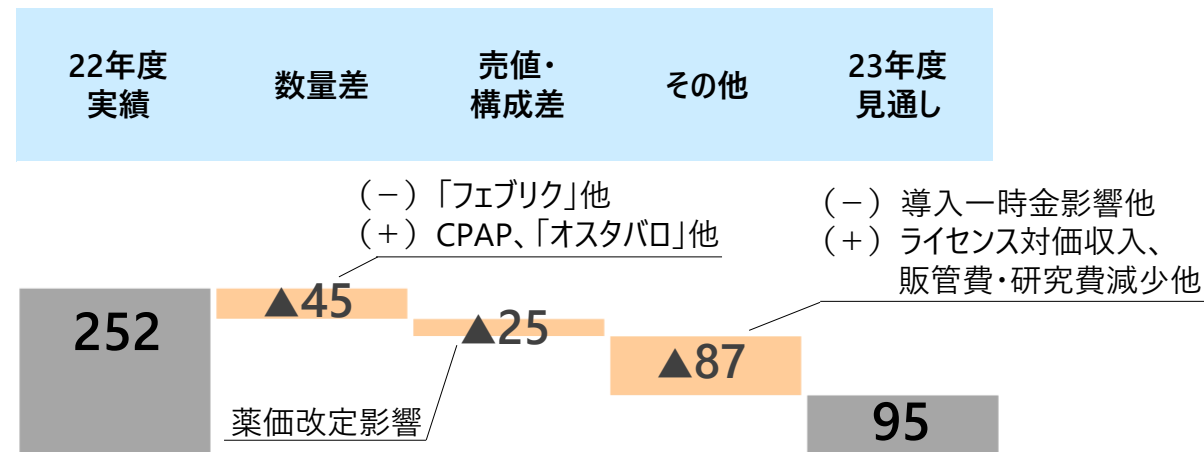
◆営業利益セグメント分析 ヘルスケア（前年度*1対比、前回見通し*2対比）

◆ 売上高：1,400億円（前年度*1 1,506億円、前回見通し*2 1,400億円）、営業利益：95億円（前年度*1 252億円、前回見通し*2 165億円）

■ 医薬品導入一時金影響により、前年度対比および前回見通し対比で大きく減益

< 営業利益増減内訳 >

（億円）



営業利益の方向・要因

前年度*1対比（売上高 ▲106億円 営業利益 ▲157億円）

前回見通し*2対比（売上高 据え置き 営業利益 ▲70億円）

- (−)医薬品導入一時金影響
- (−)医薬品「フェブリク」の後発品参入による販売量減少
- (−)薬価改定影響
- (+)ライセンス対価収入の増加
- (+)医薬品「オスタバロ」の販売量増加
- (+)医療機器のレンタル台数増加

- (−)医薬品導入一時金影響
- (+)ライセンス対価収入の増加（第4四半期予定）

*1 2023年度より新事業組織について、「ヘルスケア」セグメントから「その他」セグメントへ区分変更を実施。それに伴い2022年度の情報は、変更後のセグメント区分に組み替えた数値で表示



*2 2023年11月6日公表

◆ 営業利益セグメント分析 IT、その他（前年度*1対比、前回見通し*2対比）

◆ IT

売上高：700億円（前年度 580億円、前回見通し*2 700億円）、営業利益：95億円（前年度 81億円、前回見通し*2 95億円）



■ ネットビジネス分野販売好調、ITサービス分野販売堅調により前年度対比増益見通し、前回見通しからは変更なし

営業利益の方向・要因			
前年度対比（売上高 +120億円 営業利益 +14億円）		前回見通し*2対比（売上高・営業利益 据え置き）	
	<ul style="list-style-type: none"> ・(+)ネットビジネス：電子コミックサービスの伸長 ・(+)ITサービス：病院向け、企業向けともに堅調に推移 		<ul style="list-style-type: none"> ・前回見通しから変更なし

◆ その他

売上高：550億円（前年度*1 494億円、前回見通し*2 550億円）、営業利益：-20億円（前年度*1 -15億円、前回見通し*2 -30億円）

■ CDMO事業立ち上げに伴う先行費用により前年度対比減益も、セパレータの販売堅調により前回見通し対比では増益の見通し

営業利益の方向・要因			
前年度*1対比（売上高 +56億円 営業利益 ▲5億円）		前回見通し*2対比（売上高 据え置き 営業利益 +10億円）	
	<ul style="list-style-type: none"> ・(+)埋込医療機器分野の販売好調、セパレータの販売堅調 ・(-)CDMO事業立ち上げに伴う先行費用発生 		<ul style="list-style-type: none"> ・セパレータの販売堅調

*1 2023年度より新事業組織について、「マテリアル」、「ヘルスケア」セグメントから「その他」セグメントへ区分変更を実施。それに伴い2022年度の情報は、変更後のセグメント区分に組み替えた数値で表示

*2 2023年11月6日公表

3. 収益性改善に向けた改革の進捗状況

帝人グループ 収益性改善に向けた改革（2023年2月公表）

- 課題事業の収益性改善と役員・スタッフの経営体制変革を中心に、全社で構造改革を断行する
- これらの成果として、2023年度までに 300億円以上の収益改善を目指す

◆ 複合成形材料

■ 対策：① 一時的要因からの復旧、② 収益性改善策[約130項目の改善策、モニタリング体制強化推進]、③ 選択と集中（欧/中/日）

■ 進捗状況

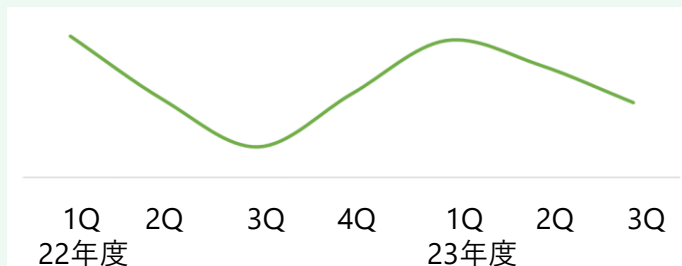
① 一時的要因からの復旧：設備故障の復旧は完了するも、同種設備の故障発生により安定稼働化未達

② 収益性改善策：「生産」で若干未達も、「販売」および「購買」は順調に進捗しており、全体としては概ね計画通り進捗

北米での収益性改善策		改善アクション概要	改善額 (億円)	改善額に対する達成状況 ^{*1}	
				23年度9ヶ月累計実績	23年度通期見通し
①一時的要因からの復旧		● 設備故障からの復旧および安定稼働	60	●	●
②収益性改善策	販売	● 低採算プログラム撤退 ● 原材料費以外の増分コストの価格転嫁再交渉	50	●	●
	購買	● サプライヤー交渉/変更、提案依頼・入札プロセス見直し ● 購買集中化	15	●	●
	生産	● ベストプラクティスの横展開、在庫・物流最適化 ● キャパシティ有効活用を目的とした拠点統合、部分撤退	65	●	●
2023年度収益改善額計			130		

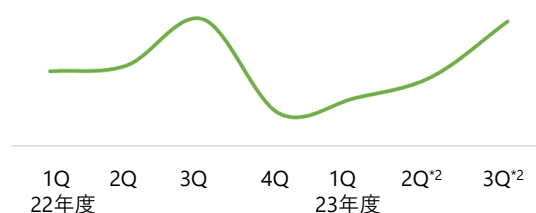
*1 達成状況 ●:達成 ●:やや遅延 ●:遅延

● 営業利益推移

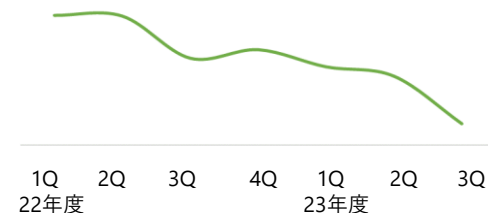


● モニタリング項目（例）推移

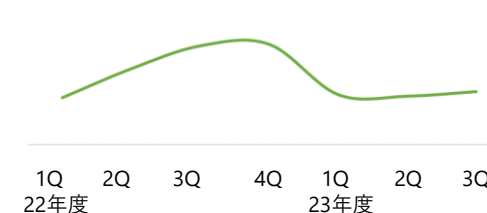
労務費比率（労務費/売上高）



離職率（離職者数/従業員数）



スクラップ率（スクラップ額/売上高）



*2 一部ストライキ影響による悪化含む

③ 選択と集中：国内子会社^{*3}の譲渡に加え、中国事業からの早期撤収完了（24年3月予定→23年12月実施）

*3 株式会社ジーエイチクラフト19

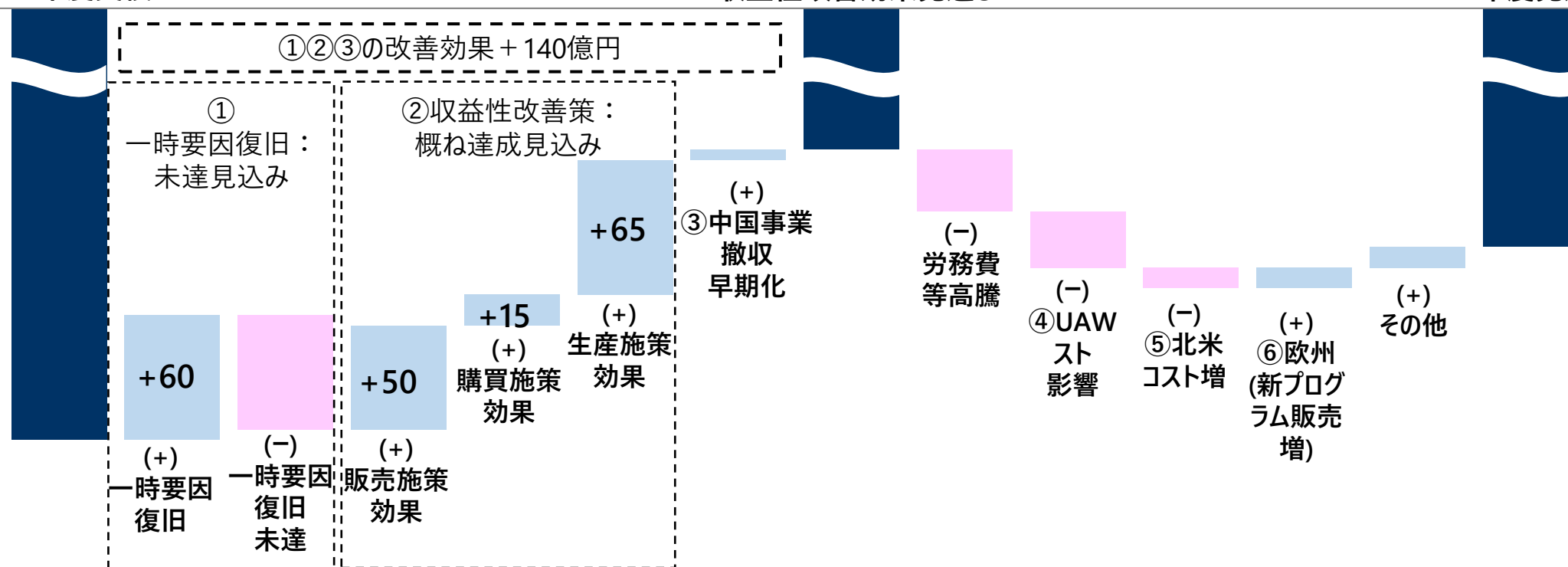
◆ 複合成形材料

■ 営業利益イメージ

2022年度実績

収益性改善効果見通し

2023年度見通し (億円)



- ①：一時要因からの復旧（効果額：60億円）は未達となる見込み
- ②：130項目の収益性改善策（効果額：130億円）は概ね達成見込み
- ③：中国事業からの撤収タイミング早期化（24年3月予定→23年12月実施）による赤字軽減
- ④：UAWのストライキによる販売量減と立上げコスト増影響
- ⑤：昨年度発生した品質問題に対する補償費用や、工程安定化のための外部エンジニアリング委託費用による計画外のコスト増
- ⑥：欧州拠点での新プログラムの生産対応及び価格改定効果による販売増

◆ アラミド

■ 対策：①一時要因からの復旧

②収益性改善策[火災を契機とした現場力強化の取り組み、「安全」「品質」といった強みの再強化、天然ガス価格対応]

■ 進捗状況

① 一時要因からの回復：原料工場の火災影響は2022年度中に前倒し回復

② 収益性改善策：天然ガス価格下落に対応した先物予約で価格安定化。特殊補修部品の納入に時間を要し生産安定化に影響も、全体として概ね計画通りに進捗

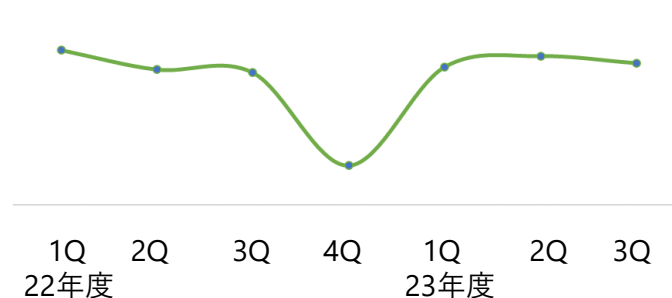
収益性改善策		改善アクション概要	改善額 (億円)	改善額に対する達成状況 ^{*1}	
				23年度9ヶ月累計実績	2023年度通期見通し
①一時要因からの復旧		● 工場火災影響からの回復	70	●	●
②収益性改善策	天然ガス 価格高騰	● 欧州域外からの原料調達、生産拠点分散検討 ● 調達価格の安定化（先物予約の実行等）	70	● ●	● ●
	生産性改善	● 既増設ラインの生産安定化 ● 紡糸工程を中心とした更なる自動化・デジタル化による生産革新		●	●
	増産/増販	● 設備能力増強の効果を早期に発現			

● 営業利益推移

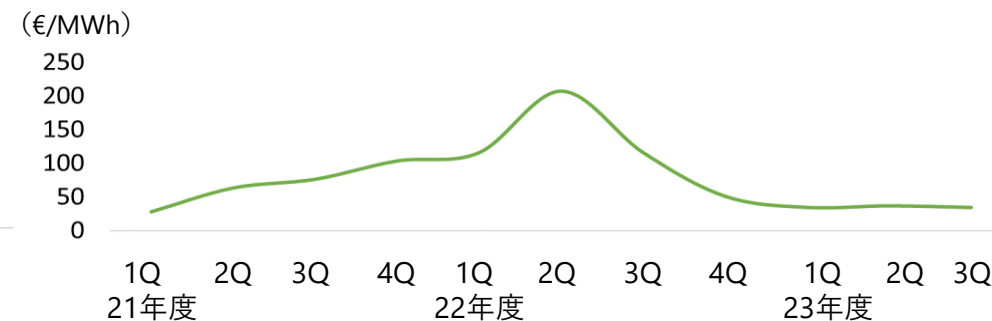


*2 火災に対する保険金収入含む

● 生産量推移



● 天然ガス価格^{*3}推移

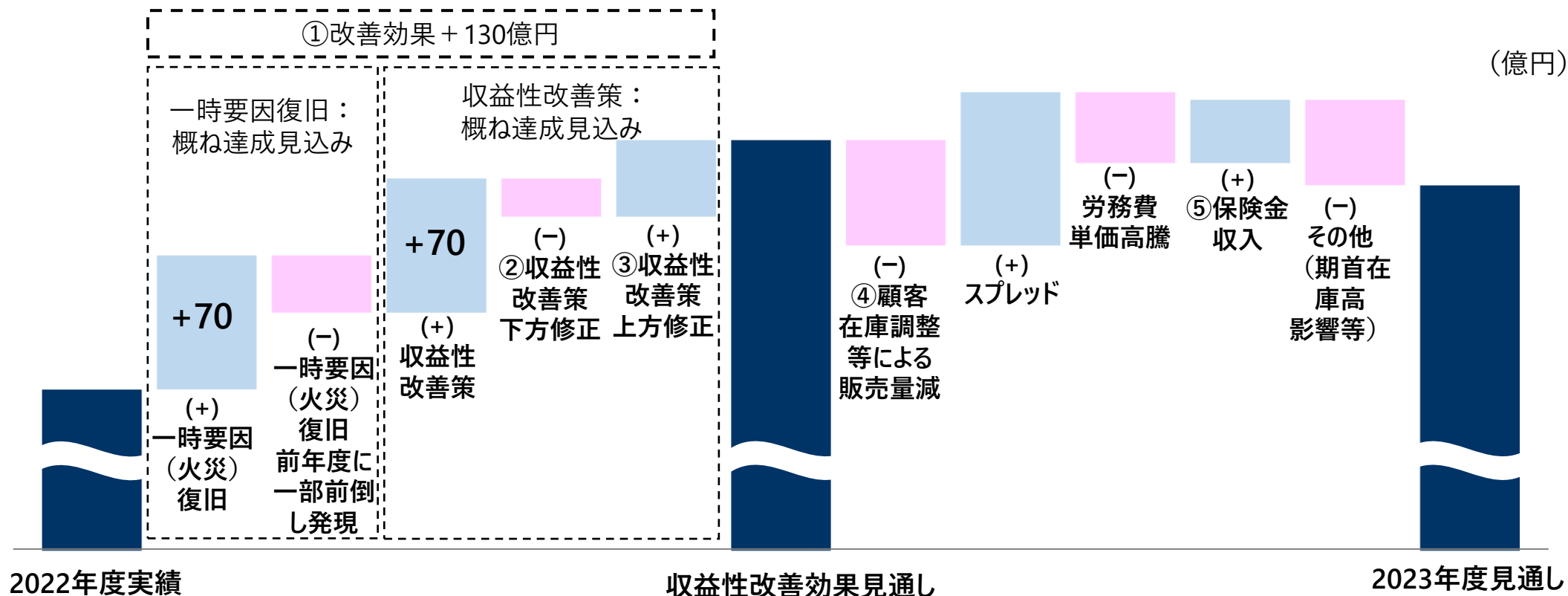


*1 達成状況 ●●:想定以上に達成 ●:達成 ●:やや遅延

*3 オランダTTF月間平均 21

◆ アラミド

■ 営業利益イメージ



- ①：一時的要因からの復旧（効果額70億円のうち一部は前期前倒し発現済）と収益性改善策（効果額：70億円）は、
②③の修正により、概ね計画通りに達成となる見込み
- ②：特殊補修部品の納入に時間を要し、生産安定化が一部未達
- ③：天然ガス価格下落に対応した先物予約により、当初想定以上に価格安定化を達成
- ④：自動車や一部産業用途での顧客在庫調整等による販売量減少
- ⑤：前年度の火災事故に対する保険金収入計上 <22年度に計上した保険金収入（21年度の工場停電関連）とネット>

◆ ヘルスケア

■ 対策：より支えを必要とする患者、家族、地域社会の課題を解決する事業となるための構造改革

- ①事業基盤を活用可能な希少疾患・難病等の医薬品導入活動
- ②適正なりソース規模への構造改革
- ③既存製品極大化

■ 進捗状況

① 導入活動：在宅医療事業基盤の活用が想定されるホルモン剤3剤(いずれも希少疾患対象)を導入（2023年11月）

- 導入先：Ascendis Pharma, A/S.（本社:デンマーク）
- 導入品の特徴：TransCon技術*1により長時間作用を達成したホルモン剤3剤（いずれも希少疾患対象）。主に内分泌内科・小児科で診療される疾患向けの**在宅自己注射剤**
- 帝人実績：「ソマチユリン*2」等で、同診療領域に情報提供を展開、多職種連携システム「バイタルリンク」等の**事業基盤**を活用した取組みも実施中
- 活動方針：ホルモン剤3剤の将来展開を目的に、「ソマチユリン」および3剤の情報提供を行う**希少疾患専門組織**を組成し、いち早く適切な情報提供活動に着手する予定
- 一時金 \$70MM、開発マイルストンの達成により最大\$175MM、売上に応じた販売マイルストーン並びに売上に対するロイヤルティを支払う

②事業構造の改革：計画通り

- 創薬研究機能の水平分業化（2023年6月）、営業部門の組織変更（2023年10月）

③ 既存製品売り上げ拡大：計画通り

*1生理活性を持たないキャリアと活性型ホルモンを架橋剤を介して結合させ、不活性体として投与することで、体内で活性型ホルモンがキャリアから徐々に放出され、ホルモンの長時間作用が達成されるAscendis社独自の技術

*2 ソマチユリン®/Somatuline® は Ipsen Pharma (仏) の登録商標です

4. 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応 (現状分析)

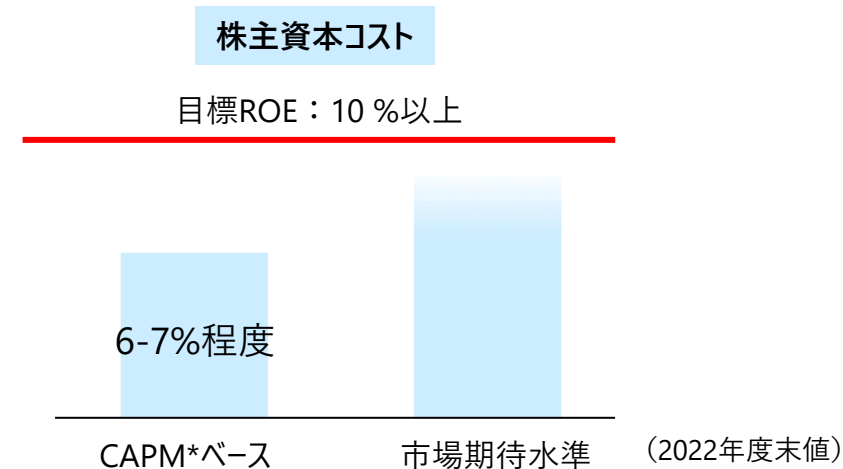
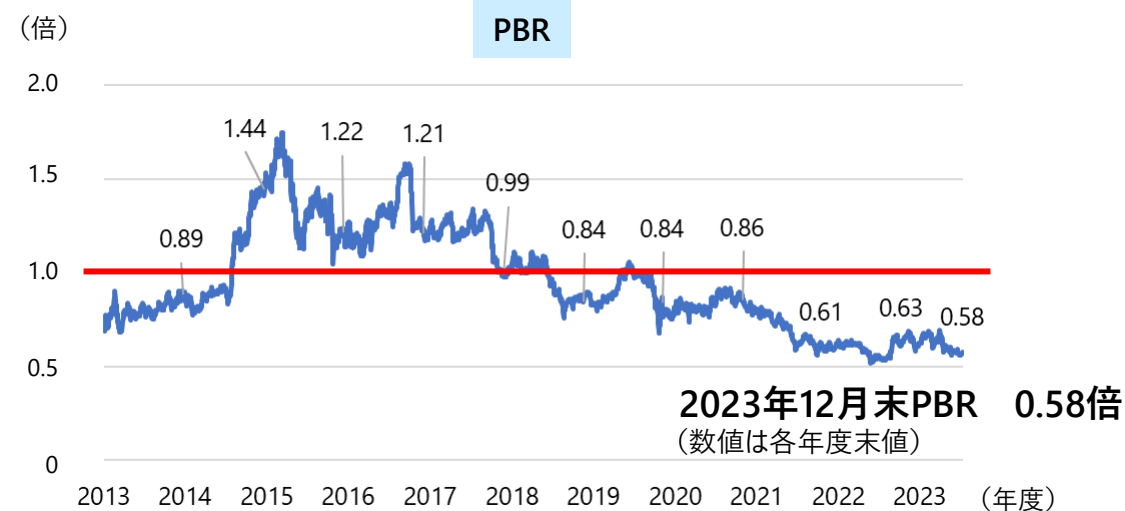
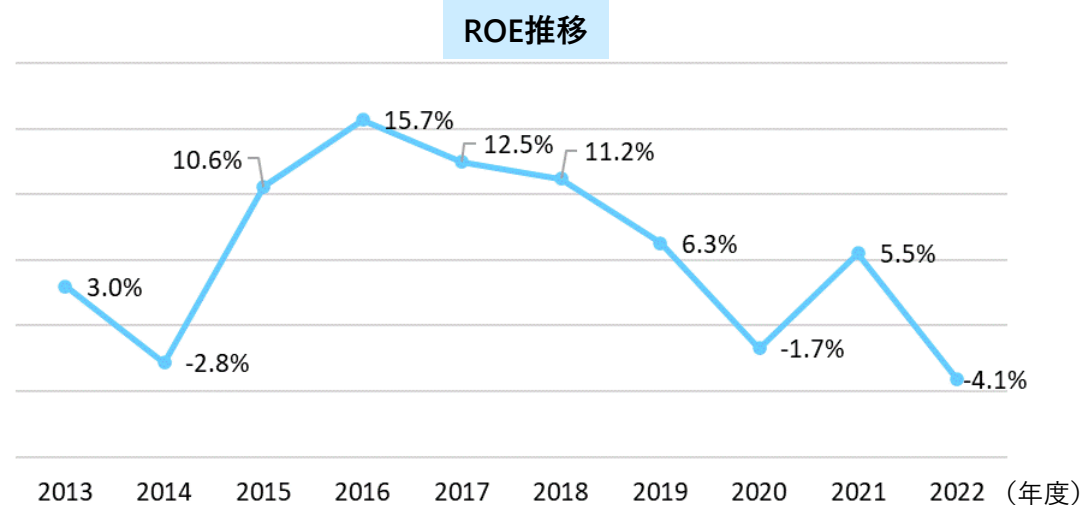
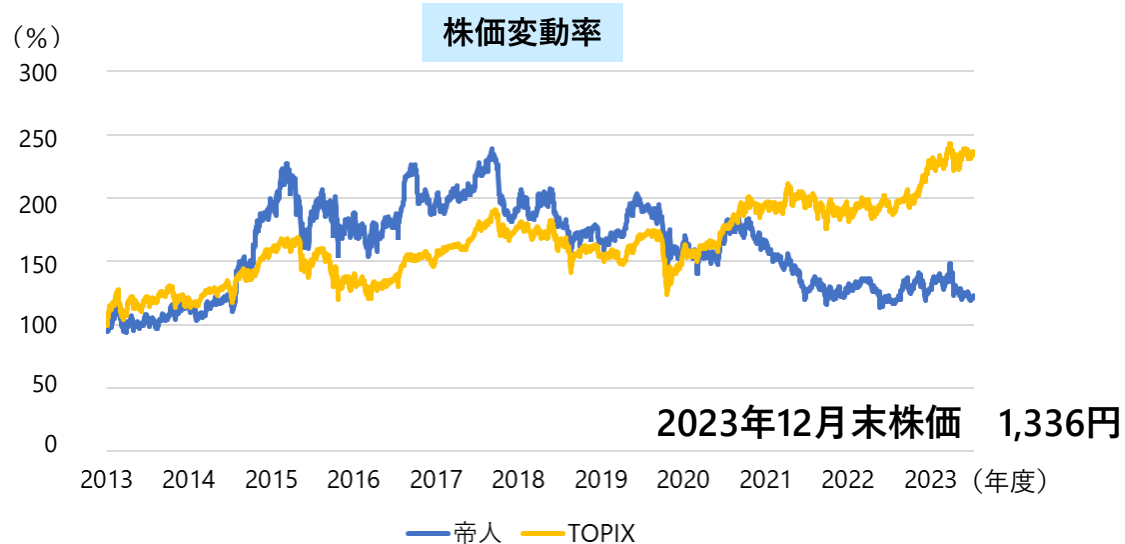
◆ 現状認識 株価、PBR、ROE、株主資本コスト

◆ 株価とPBR

- 株価は2017年度をピークに低迷、TOPIX対比でも劣後が継続
- PBRも株価低迷を受け直近5年間は概ね1.0倍以下が継続

◆ ROEと株主資本コスト

- 直近のROEはCAPMベースの株主資本コストを下回るとともに、当社想定市場期待水準とも乖離があると認識

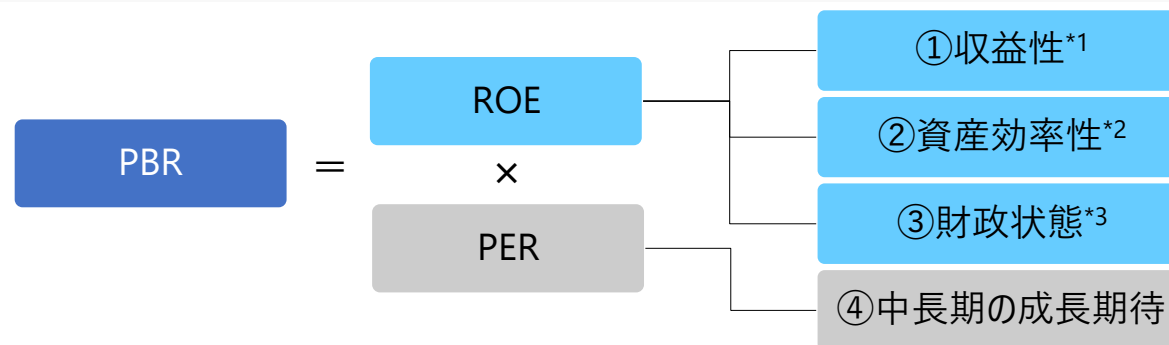


*CAPMベース株主資本コスト：リスクフリーレート30年国債利回り 1.61%、マーケットリスクプレミアム 6.44%、β値 0.80

◆ PBR構成要素分析 I

◆ 分析方法

- PBRをROEとPERに分解
- ROEについて①収益性、②資産効率性、③財政状態の観点で検討
- PERについて④中長期の成長期待の観点で検討



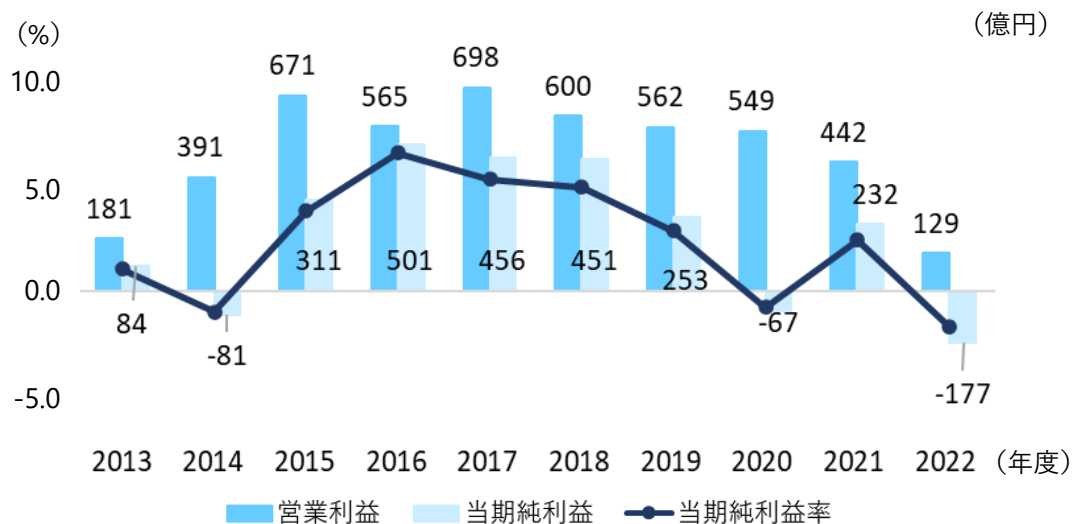
*1 売上高当期純利益率
*2 総資産回転率
*3 財務レバレッジ

◆ 分析結果 【ROE分析】

①収益性

- 2017年度以降継続的に収益性が悪化し**低ROEに大きく影響**

営業利益、当期純利益、売上高当期純利益率推移



【営業利益】

- 2017年度の698億円をピークに低下傾向が継続
- 安定収益源として期待していたアラミド事業で2020年度以降、生産のトラブルが多発し営業利益は低下傾向に転じた
- ヘルスケア事業では2022年度の「フェブリク」の後発品参入とともに収益性が大きく低下
- 将来成長を期待していた複合成形材料事業は赤字が拡大

【当期純利益】

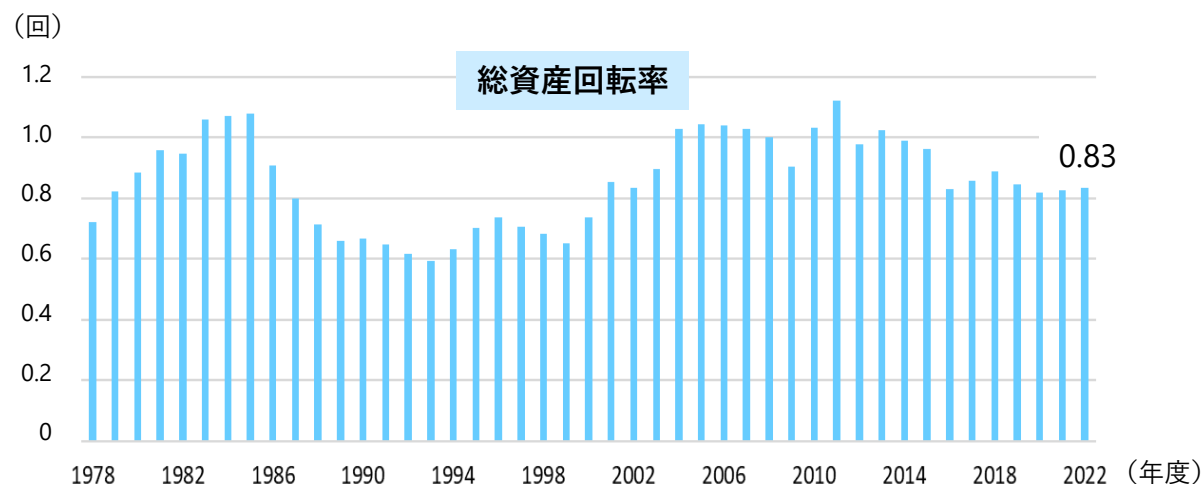
- 2016年度の501億円をピークに低下傾向
- 2020年度および2022年度は減損により赤字を計上

◆ PBR構成要素分析 II

◆ 分析結果 【ROE分析】

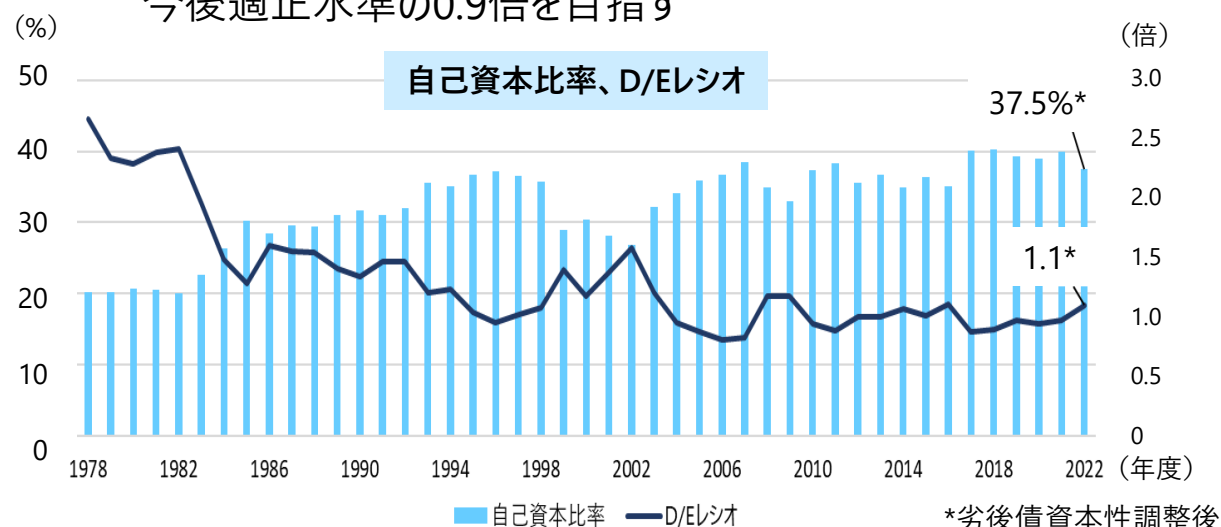
②資産効率性（総資産回転率）

- 近年では若干1.0を下回っているが業界水準並みで推移
→ROEの低下要因としては小さいと判断
- なお、今後も政策保有株式の縮減や遊休資産の売却等を積極的に推進し更なる効率化を図る



③財政状態（自己資本比率、D/Eレシオ）

- 有利子負債を積極的に活用しながらも、自己資本比率を35～40%程度でコントロールし財務規律と資本効率のバランスを確保（業界水準に比して高レバレッジ）
→ROEの低下要因としては小さいと判断
- なお、2022年度末にはD/Eレシオがやや悪化したため、今後適正水準の0.9倍を目指す



【ROE分析】 まとめ

- ①収益性、②資産効率性、③財政状態の分析から足元でのROE低下は主に①収益性が原因と特定した
- 当社の業績を考慮し、収益性悪化の要因と当社の課題を右記と再認識した

要因：課題3事業を中心とした収益性悪化

- ・「フェブリク」パテントクリア後の収益源不足
- ・2017年1月に買収したTAT-US社（旧CSP社）の業績不振
- ・アラミドの生産トラブル頻発

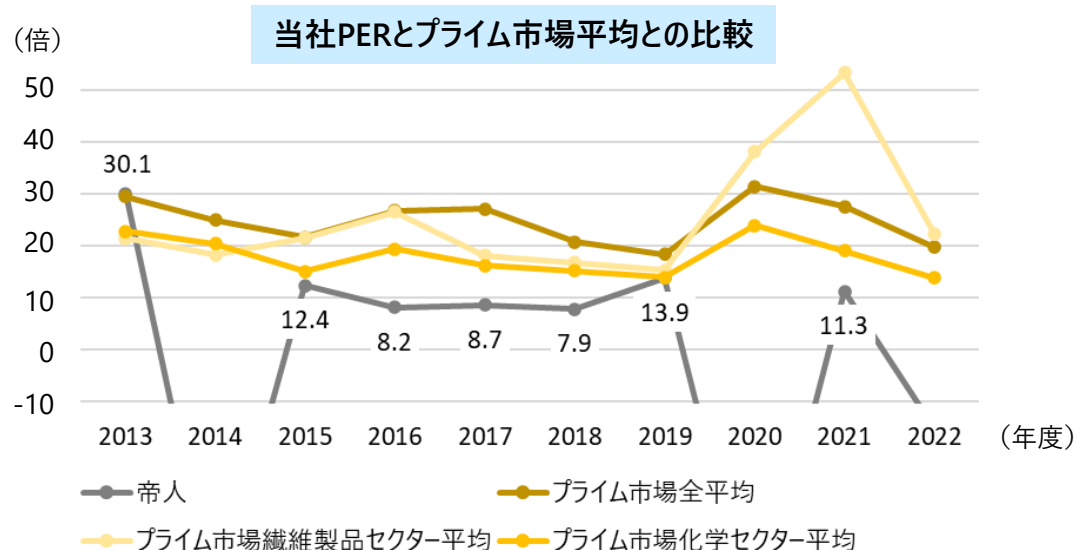
当社課題：収益性の改善とその安定化

◆ PBR構成要素分析 III

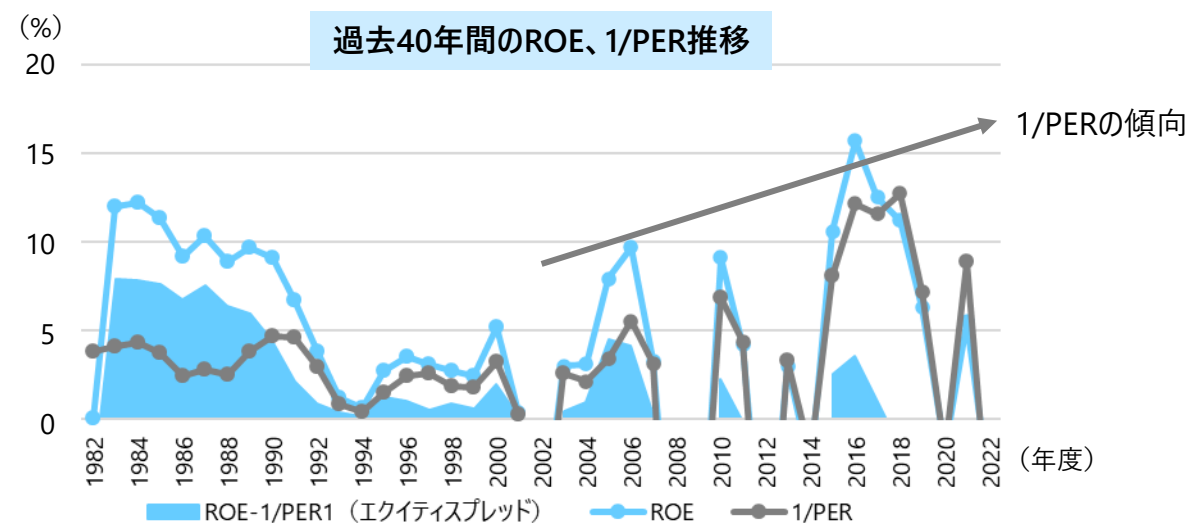
◆ 分析結果 【PER分析】

④ 中長期の成長期待

- PERは2014年度以降2019年度を除き業界水準を下回る



- 1/PER（≒市場期待水準に近い株主資本コストと想定）とROEの関係をより長期間で比較
- 2000年代中頃以降、当社は構造改革・減損と成長投資を繰り返していることによりROEの変動が大きい
- 2000年代中頃まではROEが変動しても一定水準のエクイティスプレッドを獲得も、以降は高ROEの年度でもスプレッドが縮小



【PER分析】 まとめ

- 当社のPERは低位が継続し、ROEと1/PER（≒株主資本コスト）のスプレッドも低下
- 構造改革・減損と成長投資を繰り返し、市場期待を上回る成長を継続して示すことができず、④中長期の成長期待が低下していると考察
- これらの状況を考慮し、低PERの要因と当社の課題を右記と再認識

要因：

- 減損や業績の下方修正が頻発
- 現状の事業ポートフォリオに対する妥当性を示せていない
- 将来の成長戦略と実行力に対する信頼性の低下
- 減配傾向による株主期待の低下

当社課題：中長期成長への信頼を得る経営戦略

◆ 今後に向けて

- 本分析からPBR向上、すなわち企業価値向上に向けて「収益性の改善とその安定化」、「中長期成長への信頼を得る経営戦略」を課題として認識した
- 加えて、これらの課題を解決するためには、「無形の経営基盤（含むグローバル）の再構築」が必要と認識し、下記を新中期経営計画策定に向けた検討事項としている

当社の課題	検討事項
① 収益性の改善とその安定化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「収益性改善に向けた改革」の完遂と結果評価 ・ 上記改革の残課題に対する対応（不採算事業の縮小・撤退検討を含む） ・ 改革が成就した事業の成長回帰に向けた対応
② 中長期成長への信頼を得る経営戦略	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目指すべき事業ポートフォリオの方向性提示 ・ 上記達成に向けた実行計画策定（不採算事業からの縮小・撤退、ベストオーナー視点からの非注力事業の選定・撤退、注力領域事業の設定・投資） ・ キャピタルアロケーション、株主還元の方針
③ 無形の経営基盤（グローバル含む）の再構築	<ul style="list-style-type: none"> ・ パーパス（帝人の存在意義）の再定義（Journey to ONE TEIJINプロジェクト） ・ ガバナンス面での更なる経営強化に向けた変革 ・ 人的資本戦略の見直し <p style="text-align: right;">等</p>

検討結果を踏まえ、2024年5月公表予定の新中期経営計画にて開示

5. 参考資料

◆前提 [当社の主要ターゲット市場の動向（2023年度）]

需要は全般的に堅調の見通し

事業	市場	主な地域	3Q累計実績	4Q見通し	
マテリアル	アラミド	自動車	欧州、米国	• 欧州での高級車/EV向けタイヤ需要は好調も、自動車メーカーでの在庫調整の影響あり	• 一部在庫調整の影響があるも、引き続き需要は堅調に推移
		産業資材	欧州、米国 中国	• 全般的には堅調も光ファイバー用途で需要が軟化	• 一部在庫調整の影響があるも、引き続き需要は堅調に推移
		防弾・防護	欧州、米国	• 防弾・防護とも需要は堅調	• 引き続き需要は堅調に推移
	樹脂	電気電子	中国、アジア	• 中国の景気回復遅延等により、低調な需要継続	• 低調な需要が継続
		自動車	日本、中国 アジア	• 需要は堅調	• 引き続き需要は堅調に推移
	炭素繊維	航空機	欧州、米国	• 利用者数回復で旅客機需要は好調（但し、サプライチェーン上の調達制約により需要の伸びは停滞）	• 引き続き需要は堅調に推移（但し、サプライチェーン上の調達制約により需要の伸びは停滞継続）
	複合成形	自動車	米国	• 米国の自動車需要は堅調（但し、一部車種で需要減）もUAWストライキによる生産制約の影響あり	• 引き続き需要は堅調に推移（但し、一部車種で需要減）
繊維・製品	衣料繊維	欧州、米国 中国、日本	• 米国は堅調維持、中国と欧州は景気減速 • 国内消費は好調	• 欧米・中国ともに市況は弱含み • 国内は引き続き好調に推移	
	産業資材	日本、中国	• 自動車関連はサプライチェーンでの在庫調整が継続	• 在庫調整局面は徐々に解消の見通し	

◆前提 [当社の主要ターゲット市場の動向（2023年度）]

事業	市場	主な地域	3Q累計実績	4Q見通し
ヘルスケア	医薬品	日本	<ul style="list-style-type: none"> 痛風・高尿酸血症患者数は拡大基調だが、後発品参入により市場規模（薬価売上）は縮小 DPP4阻害薬市場は微減も帝人のシェアは維持。厳しい競争環境は継続 オスタバロは2023年12月から投薬期間制限が解除。病院を中心に採用軒数拡大、プロモーション継続強化 	
			<ul style="list-style-type: none"> コロナ収束後も病院では訪問規制が継続 e-プロモーション強化を継続 	<ul style="list-style-type: none"> リアル面談活動は増加も病院での訪問規制は継続が見込まれ、リアルとe-プロモーションのハイブリッド活動を展開する
	在宅医療		<ul style="list-style-type: none"> 在宅酸素療法（HOT）はCOVID-19によるHOT導入は減少するも市場は横ばい 	
			<ul style="list-style-type: none"> 在宅持続陽圧呼吸療法（CPAP）市場は拡大継続、検査数も緩やかに回復 	
IT	電子コミック	日本	<ul style="list-style-type: none"> 電子コミックの需要は堅調 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き堅調に推移

◆前提 [損益影響要因]

◇為替・市況燃料価格

		22年度 3Q累計	23年度 3Q累計
PL換算レート	円/米ドル	137	143
	円/ユーロ	141	155
原油(Dubai)価格 (米ドル/バレル)		96	82
欧州天然ガス価格 (ユーロ/MWh)		136	37

◇前提条件

		22年度	23年度 前回見通し*1	23年度 見通し
通期平均	円/米ドル	135	143	144
為替レート	円/ユーロ	141	154	155
原油(Dubai)価格		92	81	82
欧州天然ガス価格 (ユーロ/MWh)		116	46	38

*1 2023年11月6日公表

◇定常的な損益影響要因

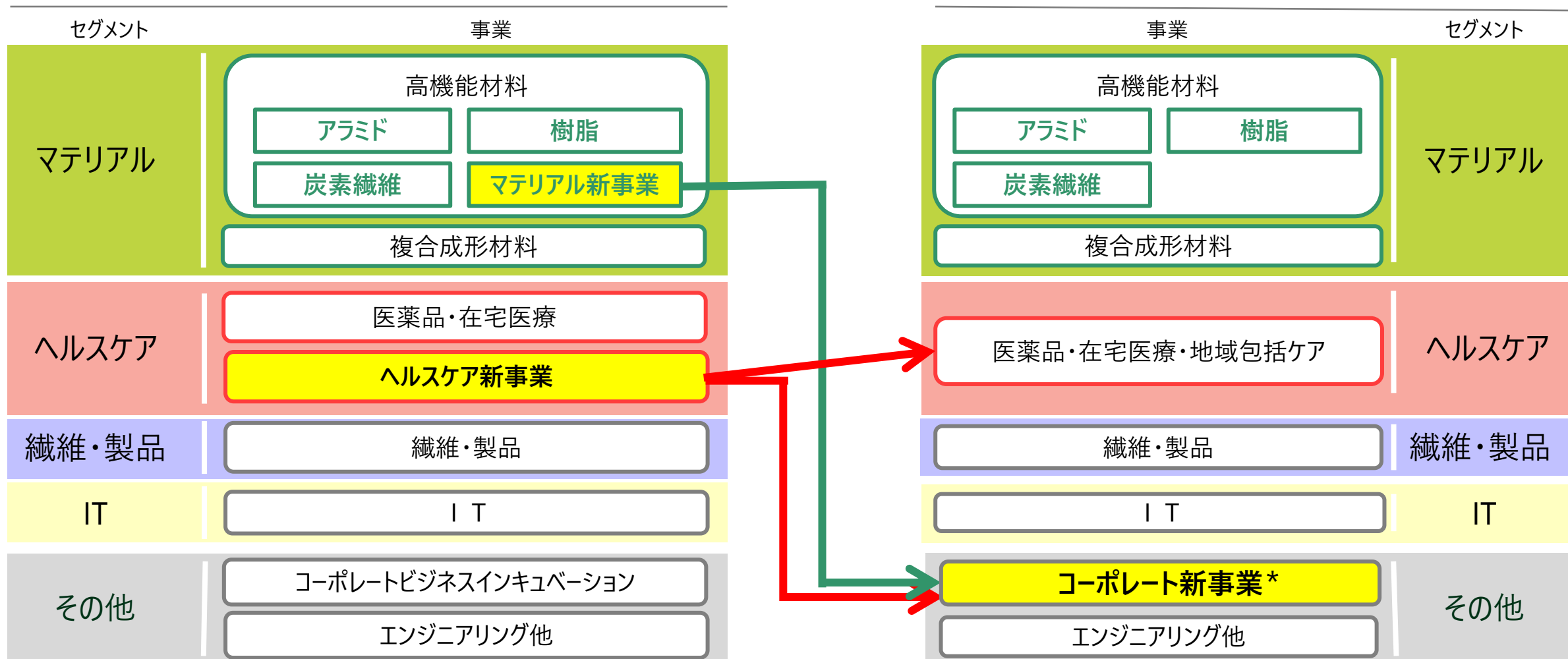
セグメント	主な特徴
マテリアル	<ul style="list-style-type: none"> アラミドの大型定修は3年に一度（次回は2024年度1Q予定を2025年度1Qに延期） 樹脂は毎年2Q、3Qに定修
繊維・製品	<ul style="list-style-type: none"> 衣料関係は2Q～3Qが秋冬物・4Qが春物シーズン
ヘルスケア	<ul style="list-style-type: none"> 4Qに経費集中傾向
IT	<ul style="list-style-type: none"> 2Q、4Qはシステム検収時期で納入増

◆前提 [開示セグメントの変更]

将来投資の領域となる新規事業、事業間の協創によるイノベーションの創出をコーポレートにて横断的に実施する体制へ
 (マテリアル、ヘルスケア内の新事業をコーポレートインキュベーション部門と統合し、コーポレート新事業本部として再編)

～2022年度

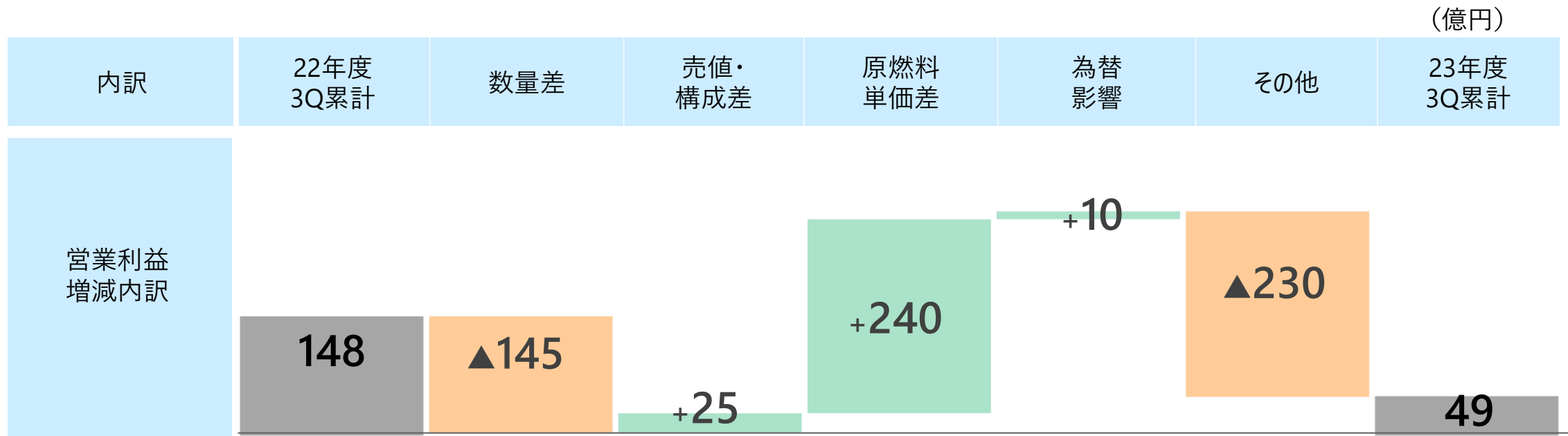
2023年度～



◆2023年度第3四半期実績 営業利益増減（連結合計） [前年同期対比]

(億円)

	22年度 3Q累計	23年度 3Q累計	差異	増減率
売上高	7,651	7,596	-55	-0.7%
EBITDA	707	643	-64	-9.1%
減価償却費	559	594	+35	+6.3%
営業利益	148	49	-100	-67.3%
営業利益ROIC	2.4%	0.8%	-1.6%	-



◆2023年度第3四半期実績 セグメント別まとめ [前年同期対比]

(億円)

	合計				マテリアル				繊維・製品			
	22年度 3Q累計	23年度 3Q累計	差異	増減率	22年度 3Q累計*	23年度 3Q累計	差異	増減率	22年度 3Q累計	23年度 3Q累計	差異	増減率
売上高	7,651	7,596	-55	-0.7%	3,314	3,213	-101	-3.0%	2,407	2,388	-19	-0.8%
EBITDA	707	643	-64	-9.1%	130	235	+105	+80.8%	131	148	+17	+12.8%
減価償却費	559	594	+35	+6.3%	268	293	+25	+9.4%	52	55	+3	+6.0%
営業利益	148	49	-100	-67.3%	-138	-58	+80	-	79	93	+14	+17.3%
営業利益ROIC	2.4%	0.8%	-1.6%	-	-5%	-2%	+3%	-	8%	9%	+1%	-

	ヘルスケア				IT				その他			
	22年度 3Q累計*	23年度 3Q累計	差異	増減率	22年度 3Q累計	23年度 3Q累計	差異	増減率	22年度 3Q累計*	23年度 3Q累計	差異	増減率
売上高	1,141	1,071	-70	-6.1%	416	517	+101	+24.2%	374	407	+33	+8.9%
EBITDA	403	211	-192	-47.7%	59	71	+12	+19.5%	27	28	+0	+0.4%
減価償却費	194	194	-1	-0.4%	5	7	+2	+41.9%	33	40	+6	+19.1%
営業利益	209	18	-192	-91.6%	54	64	+9	+17.3%	-6	-12	-6	-
営業利益ROIC	15%	1%	-14%	-	47%	56%	+10%	-				

*2023年度より新事業組織について、「マテリアル」、「ヘルスケア」セグメントから「その他」セグメントへ区分変更を実施。
それに伴い2022年度の情報は、変更後のセグメント区分に組み替えた数値で表示

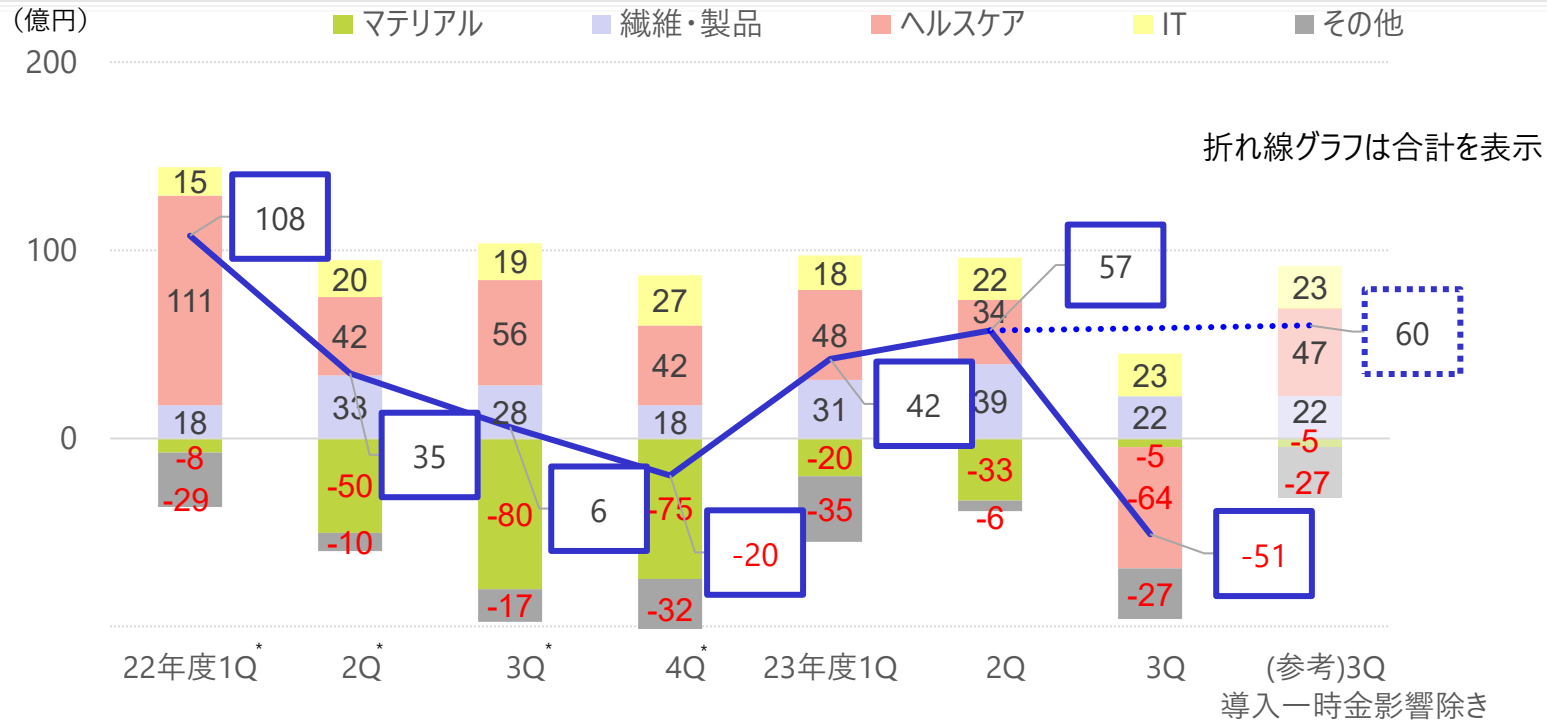
◆2023年度第3四半期実績 セグメント別四半期推移 [前年同期対比、前四半期対比]

	22年度*					23年度			(億円)	
	1Q	2Q	3Q	4Q	年間	1Q	2Q	3Q	差異 23/3Q -22/3Q	差異 23/3Q -23/2Q
売上高										
高機能材料	665	747	672	665	2,748	608	653	652	-20	-0
複合成形材料	375	440	416	408	1,638	450	445	406	-11	-39
マテリアル 計	1,039	1,186	1,088	1,073	4,387	1,058	1,097	1,058	-30	-40
繊維・製品	737	849	822	814	3,221	756	830	803	-19	-27
ヘルスケア	431	348	361	366	1,506	358	349	364	+3	+15
IT	129	144	143	164	580	162	181	174	+31	-6
その他	102	139	132	120	494	115	160	132	+0	-28
合計	2,438	2,666	2,546	2,537	10,188	2,448	2,617	2,531	-16	-86
営業利益										
マテリアル	-8	-50	-80	-75	-213	-20	-33	-5	+75	+28
繊維・製品	18	33	28	18	97	31	39	22	-6	-17
ヘルスケア	111	42	56	42	252	48	34	-64	-121	-99
IT	15	20	19	27	81	18	22	23	+3	+0
その他	-12	5	1	-9	-15	-11	5	-7	-8	-12
消去又は全社	-17	-15	-18	-22	-73	-24	-11	-20	-2	-9
合計	108	35	6	-20	129	42	57	-51	-57	-108

*2023年度より新事業組織について、「マテリアル」、「ヘルスケア」セグメントから「その他」セグメントへ区分変更を実施。
それに伴い2022年度の情報は、変更後のセグメント区分に組み替えた数値で表示

◆2023年度第3四半期実績 セグメント別営業利益 [四半期推移]

営業利益推移



営業利益変動額 (億円)、要因 (2023年2Q→2023年3Q)

全体	▲108	ヘルスケアの導入一時金影響等により減益 (導入一時金除きでは微増益)
- マテリアル	+28	(+) アラミドの保険金収入影響 (-) アラミドでのサプライチェーンの在庫調整による販売量減少
- 繊維・製品	▲17	衣料繊維での販売量減少 (2Qでの販売好調からの反動)
- ヘルスケア	▲99	医薬品導入一時金影響
- IT	+0	電子コミックサービス販売好調継続

*2023年度より新事業組織について、「マテリアル」、「ヘルスケア」セグメントから「その他」セグメントへ区分変更を実施。それに伴い2022年度の情報は、変更後のセグメント区分に組み替えた数値で表示

◆2023年度第3四半期実績 連結損益計算書 [四半期推移]

(億円)

	22年度				23年度		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
売上高	2,438	2,666	2,546	2,537	2,448	2,617	2,531
売上原価	1,749	2,040	1,968	1,949	1,798	1,950	1,851
売上総利益	689	626	578	588	651	667	680
販管費	581	592	572	607	609	609	731
営業利益	108	35	6	-20	42	57	-51
営業外損益	35	22	-31	-64	8	-7	27
(内 持分法投資損益)	12	13	13	-50	-5	8	74
経常利益	143	57	-25	-84	50	50	-24
特別損益	2	-4	-81	-23	23	-36	44
税金等調整前四半期純利益	145	53	-106	-106	73	15	20
法人税等	67	43	39	-6	48	32	-25
非支配株主に帰属する 四半期純利益	5	7	0	6	6	7	5
親会社株主に帰属する 四半期純利益	73	3	-146	-106	19	-24	40

◆2023年度第3四半期実績 連結貸借対照表 [四半期推移]

(億円)

	22年度				23年度		
	6月末	9月末	12月末	3月末	6月末	9月末	12月末
資産							
流動資産	6,030	6,331	6,088	6,133	6,542	6,706	6,526
固定資産	6,623	6,720	6,302	6,291	6,486	6,500	6,317
合計	12,653	13,051	12,390	12,424	13,028	13,207	12,843
負債・純資産							
負債	7,854	8,222	7,863	7,913	8,315	8,484	8,179
(内 有利子負債)	5,178	5,447	5,236	5,294	5,764	5,698	5,721
純資産	4,799	4,829	4,527	4,511	4,713	4,723	4,664
合計	12,653	13,051	12,390	12,424	13,028	13,207	12,843

◆2023年度業績見通し セグメント別 売上高・営業利益 [前年度対比]

(億円)

	22年度実績*			23年度見通し			差異		
	上期	下期	年間	上期	下期	年間	上期	下期	年間
売上高									
高機能材料	1,411	1,337	2,748	1,261	1,439	2,700	-150	+102	-48
複合成形材料	814	824	1,638	894	856	1,750	+80	+32	+112
マテリアル 計	2,226	2,161	4,387	2,155	2,295	4,450	-70	+134	+63
繊維・製品	1,585	1,635	3,221	1,585	1,615	3,200	+0	-21	-21
ヘルスケア	779	727	1,506	707	693	1,400	-72	-34	-106
IT	273	308	580	342	358	700	+70	+50	+120
その他	242	252	494	275	275	550	+33	+23	+56
合計	5,105	5,083	10,188	5,065	5,235	10,300	-39	+152	+112
営業利益									
マテリアル	-58	-155	-213	-53	23	-30	+4	+178	+183
繊維・製品	51	46	97	70	50	120	+19	+4	+23
ヘルスケア	153	99	252	82	13	95	-71	-85	-157
IT	35	46	81	41	54	95	+6	+8	+14
その他	-7	-8	-15	-5	-15	-20	+2	-6	-5
消去又は全社	-32	-41	-73	-35	-45	-80	-3	-4	-7
合計	142	-14	129	100	80	180	-43	+94	+51

*2023年度より新事業組織について、「マテリアル」、「ヘルスケア」セグメントから「その他」セグメントへ区分変更を実施。
それに伴い2022年度の情報は、変更後のセグメント区分に組み替えた数値で表示

◆2023年度業績見通し セグメント別まとめ [前年度*1対比、前回見通し*2対比]

(億円)

	合計					マテリアル					繊維・製品				
	22年度 実績	23年度 見通し	差異	23年度 前回見通し*2	差異	22年度 実績*1	23年度 見通し	差異	23年度 前回見通し*2	差異	22年度 実績	23年度 見通し	差異	23年度 前回見通し*2	差異
売上高	10,188	10,300	+112	10,300	0	4,387	4,450	+63	4,450	0	3,221	3,200	-21	3,200	0
EBITDA	878	960	+82	1,130	-170	147	340	+193	440	-100	166	190	+24	190	0
減価償却費	749	780	+31	780	0	360	370	+10	370	0	69	70	+1	70	0
営業利益	129	180	+51	350	-170	-213	-30	+183	70	-100	97	120	+23	120	0
営業利益ROIC	1.6%	2%	+1%	4%	-2%	-6%	-1%	+5%	2%	-3%	7%	8%	+1%	8%	0%

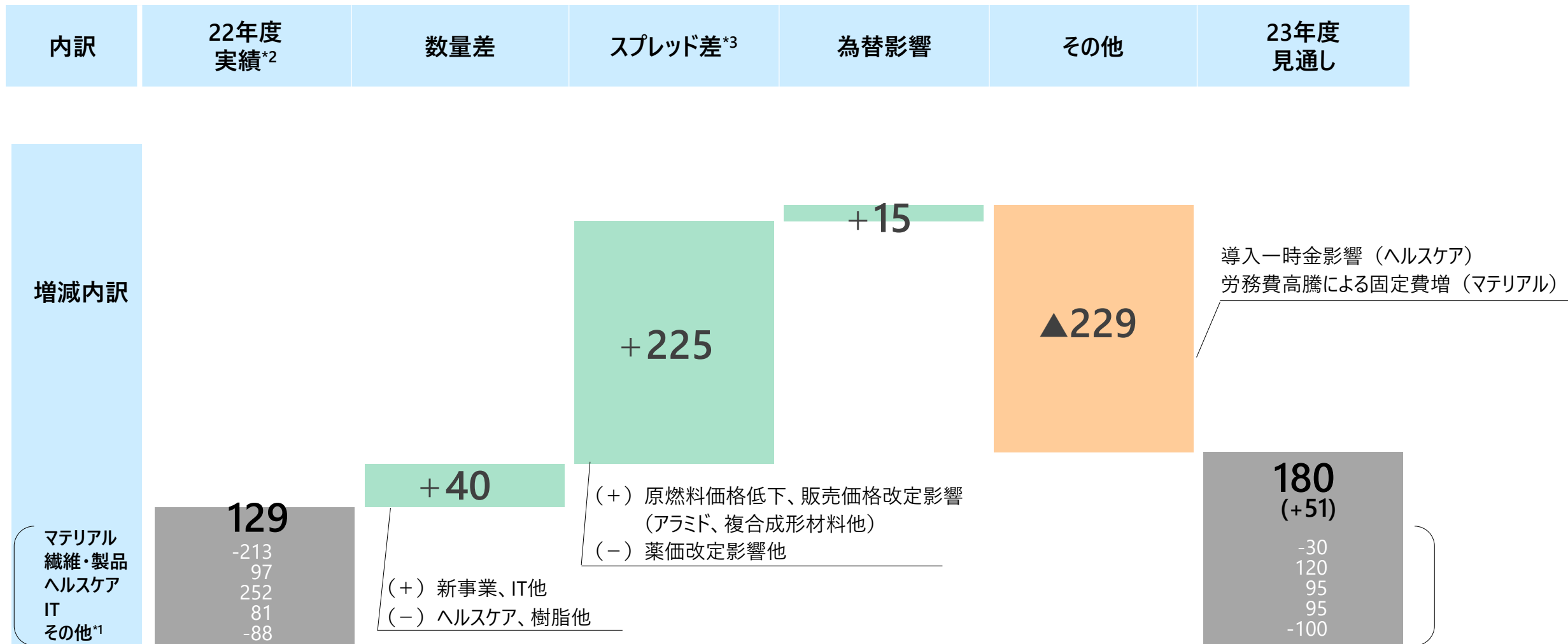
	ヘルスケア					IT					その他				
	22年度 実績*1	23年度 見通し	差異	23年度 前回見通し*2	差異	22年度 実績	23年度 見通し	差異	23年度 前回見通し*2	差異	22年度 実績*1	23年度 見通し	差異	23年度 前回見通し*2	差異
売上高	1,506	1,400	-106	1,400	0	580	700	+120	700	0	494	550	+56	550	0
EBITDA	510	355	-155	425	-70	88	105	+17	105	0	30	40	+10	30	+10
減価償却費	259	260	+1	260	0	7	10	+3	10	0	46	60	+14	60	0
営業利益	252	95	-157	165	-70	81	95	+14	95	0	-15	-20	-5	-30	+10
営業利益ROIC	14%	6%	-8%	10%	-4%	53%	70%	+17%	70%	0%					

*1 2023年度より新事業組織について、「マテリアル」、「ヘルスケア」セグメントから「その他」セグメントへ区分変更を実施。それに伴い2022年度の情報は、変更後のセグメント区分に組み替えた数値で表示

*2 2023年11月6日公表

◆2023年度業績見通し 営業利益増減要因 [前年度対比]

(億円)



*1 その他は「その他」及び「消去又は全社」の合計としている

*2 2023年度より新事業組織について、「マテリアル」、「ヘルスケア」セグメントから「その他」セグメントへ区分変更を実施。それに伴い2022年度の情報は、変更後のセグメント区分に組み替えた数値で表示

*3 売値・構成差 + 原燃料単価差

◆ 主要経営指標推移

	18年度 実績	19年度 実績	20年度 実績	21年度 実績	22年度 実績	23年度 見通し
ROE ^{*1}	11.2%	6.3%	-1.7%	5.5%	-4.1%	2%
営業利益ROIC ^{*2}	9.3%	8.7%	8.6%	5.5%	1.6%	2%
EBITDA ^{*3} (億円)	1,076	1,072	1,068	1,130	878	960
1株当たり当期純利益 (円)	232.4	131.6	-34.7	120.6	-92.0	41.6
1株当たり配当金 (円)	70 [*]	60	50	55	40	30
*100周年記念配当 10円/株を含む						
総資産 (億円)	10,207	10,042	10,411	12,076	12,424	12,900
有利子負債 (億円)	3,692	3,819	3,800	4,852	5,294	5,450
D/Eレシオ ^{*4}	0.90	0.97	0.94	1.10	1.25	1.2
D/Eレシオ (資本性調整後) ^{*5}	-	-	-	0.97	1.10	1.1
自己資本比率	40.2%	39.3%	39.0%	36.4%	34.2%	34%

*1 「親会社株主に帰属する当期純利益÷期首・期末平均自己資本」にて算出

2 「営業利益÷期首・期末平均投下資本^{}」にて算出 (*投下資本 = 純資産 + 有利子負債 - 現金及び預金)

*3 「営業利益 + 減価償却費 (のれんを含む)」にて算出

*4 「有利子負債÷自己資本」にて算出 (グロス表示)

*5 劣後債資本性調整後のD/Eレシオ (2021年7月21日 劣後債 600億円発行済)

◆主要医薬品 国内売上高実績推移

(億円)

品名	薬効	22年度					23年度		
		1Q	2Q	3Q	4Q	計	1Q	2Q	3Q
糖尿病治療剤四剤合計		69	62	67	50	248	63	58	61
ネシーナ®	2型糖尿病治療剤	34	31	33	25	122	31	28	29
イニシク®	2型糖尿病治療剤（配合剤）	20	18	20	15	74	19	17	18
リオバル®	2型糖尿病治療剤（配合剤）	10	9	9	6	34	8	7	8
ザファテック®	2型糖尿病治療剤	5	5	4	3	17	5	6	6
フェブリク®	痛風・高尿酸血症治療剤	87	17	23	18	145	20	21	20
ボナロン®*1	骨粗鬆症治療剤	18	18	18	15	69	16	16	17
ソマチュリン®*2	先端巨大症・下垂体性巨人症、甲状腺刺激ホルモン産生下垂体腫瘍、膵・消化管神経内分泌腫瘍治療剤	14	14	15	14	57	15	15	17
ベニロン®	重症感染症治療剤	10	11	12	11	44	14	14	16
ロコア®	経皮吸収型鎮痛消炎剤	5	5	5	4	19	5	4	5
ゼオマイン®*3	上下肢痙縮治療剤	4	4	5	5	18	5	5	6
ムコソルバン®	去痰剤	4	4	5	4	18	4	5	5

*1 ボナロン®/Bonalon® はNV Organon(蘭)の登録商標です *2 ソマチュリン®/Somatuline® は Ipsen Pharma (仏)の登録商標です

*3 ゼオマイン®/Xeomin® は、Merz Pharma GmbH & Co, KGaA (独)の登録商標です

◆非財務情報 ESG外部評価

GPIFの5つのESG指数全ての構成銘柄に採用されています

FTSE Blossom
Japan Index2023 CONSTITUENT MSCI日本株
女性活躍指数 (WIN)S&P/JPX
カーボン
エフィシエント
指数FTSE Blossom
Japan Sector
Relative Index2023 CONSTITUENT MSCIジャパン
ESGセレクト・リーダーズ指数

(注) MSCIインデックスへの帝人株式会社の組み入れ及び帝人株式会社によるMSCIのロゴ、商標、サービスマークまたはインデックス名の使用は、MSCIまたはその関係会社による帝人株式会社へのスポンサーシップ・宣伝・販売促進を企図するものではありません。MSCIインデックスはMSCIの独占的財産であり、MSCI及びMSCIインデックスの名称ならびにロゴは、MSCIまたはその関係会社の商標またはサービスマークです。

MSCI ESG格付評価において最上位の「AAA」を獲得しました

MSCI
ESG RATINGS

CCC B BB BBB A AA AAA

日経SDGs経営調査で非常に高い評価を得ています

NIKKEI
SDGs

経営調査 2023 ★★★★★

・ 4分野全てにおいて「S以上」の高評価

SRI（社会的責任投資）インデックスに組み入れられています

Member of
Dow Jones
Sustainability Indices

Powered by the S&P Global CSA



FTSE4Good



ESGへの取り組みが優れている企業として、2つの国内プログラムに選定されています

健康経営推進

2023
健康経営優良法人
Health and productivityスポーツエールカンパニー
(ブロンズ認定*)SPORTS
YELL
COMPANY
2023* 認定回数5回～6回
の企業の呼称

TEIJIN

Human Chemistry, Human Solutions